

## 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：181社（66.5%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

### 概 況

#### — 社会経済活動の再開により業況は改善するも、原材料費の高騰が足かせに —

前年同期（2020年10月～12月）と比べた今期（2021年10月～12月）の状況  
今期と比べた来期（2022年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲18.0で、前年同期と比べ18.8ポイント上昇しました。緊急事態宣言等の全面解除によって社会経済が動き出したこと等により、運輸・倉庫業を除く各業種で業況判断DIが上昇しており、サービス業ではプラスに転じました。原材料価格や仕入価格、燃料費の高騰が各業種の主要な課題です。

業種別DIは、製造業が同20.8ポイント上昇の▲11.8となりました。売上DIが大幅に上昇し、設備操業率DIと引合いDIがプラスに転じる等、好転傾向が見られましたが、8割超の企業で仕入単価が上昇しました。卸売業は同38.9ポイント上昇の▲11.1となりました。仕入単価DIの上昇が顕著ですが、売上DIと売上単価DIも大幅に上昇し、採算DIはプラスに転じました。小売業は同5.7ポイント上昇の▲14.3となりました。客数の減少傾向は大幅に緩和されたものの、客単価DIのマイナス転化や、仕入単価DIの大幅な上昇等が、採算の悪化傾向を強めました。運輸・倉庫業は同13.2ポイント低下の▲44.4となりました。昨年同期は旅客運送の全社、貨物運送の8割弱の企業で売上が減少しましたが、今期は両業種とも約半数の企業の減少にとどまりました。倉庫は回答に占める売上の不変、減少の割合が4割強から7割弱に増加しており、在庫量の減少と、保管残高の大幅な減少の影響が推察されます。観光業は同39.4ポイント上昇の▲42.9となりました。業況判断DI、売上DI、採算DIいずれも上昇しましたが、全てマイナス水準にとどまりました。利用客数の減少傾向は大幅に弱まり、客単価はプラスに転じましたが、仕入単価の大幅な上昇や、急激な需要回復に対し従業員の確保が追いつかない状況が見られます。サービス業は同49.3ポイント上昇の16.0となりました。緊急事態宣言の解除により、客数が回復傾向にあります。業況判断DI、売上DI、利用客数DI、資金繰りDIがプラスに転じ、好転傾向が見られます。建設業は同9.4ポイント低下の▲17.4となりました。業況判断DI、売上DI、採算DI全てが低下しました。材料仕入単価DIの上昇が顕著です。資金繰りDIのマイナス水準への低下や従業員不足等、厳しい状況にあります。

来期の業況判断DIは▲12.4で、悪化傾向が続くと予想しています。小売業と観光業では、業況判断DI、売上DI、採算DIの上昇を予想していますが、他業種では概ね現状維持または低下を予想しています。仕入価格の高騰や、新型コロナウイルスの再流行による経済の停滞が懸念されます。

業況、売上、採算

今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲18.0で、前年同期(2020.10～12)と比べ18.8ポイント上昇しました。

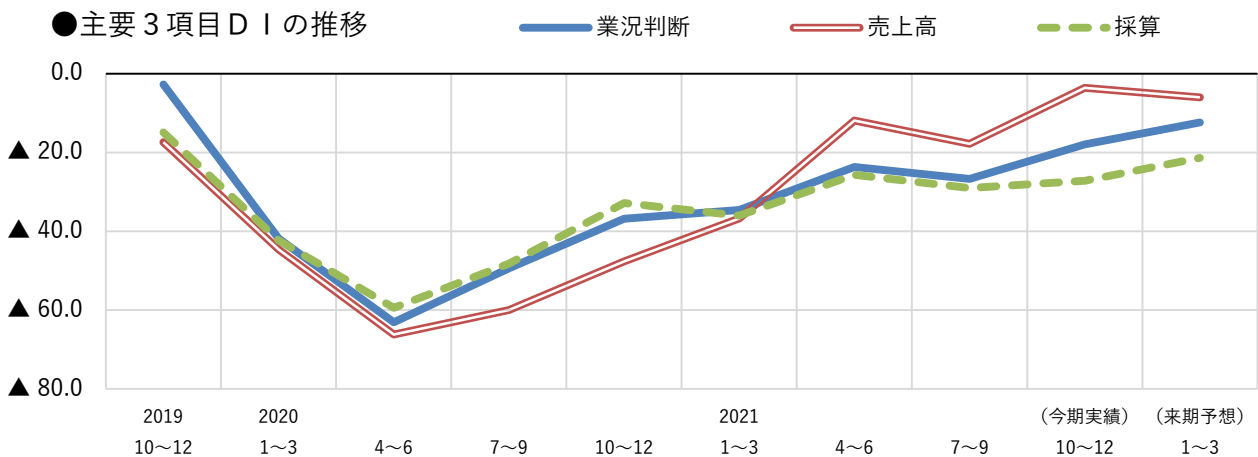
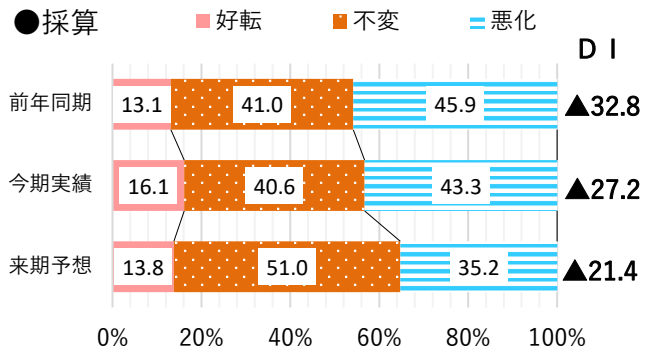
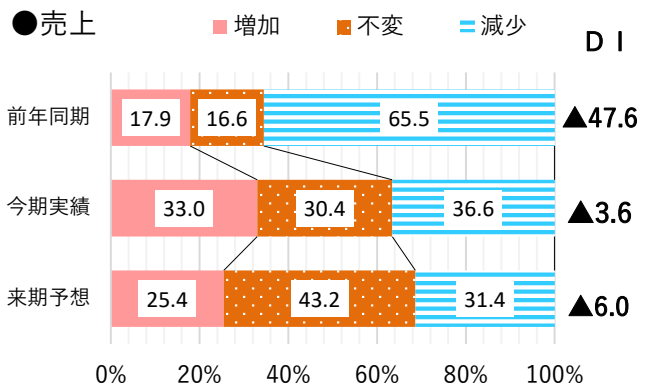
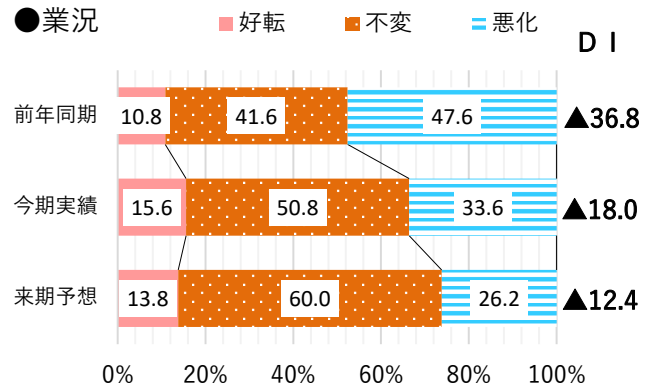
来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは▲3.6で、前年同期と比べ44.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは▲27.2で、前年同期と比べ5.6ポイント上昇しました。

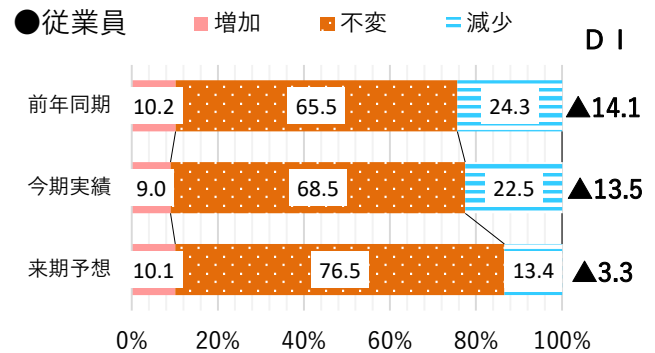
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



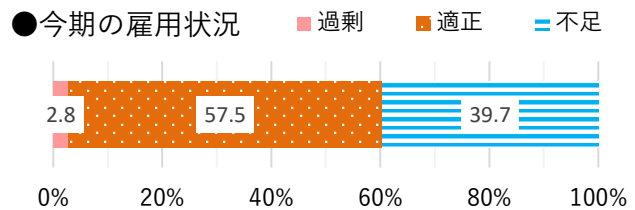
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲13.5で、前年同期と比べ0.6ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.8%、適正であると回答した企業の割合は57.5%、不足していると回答した企業の割合は39.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の44.7%を占めています。

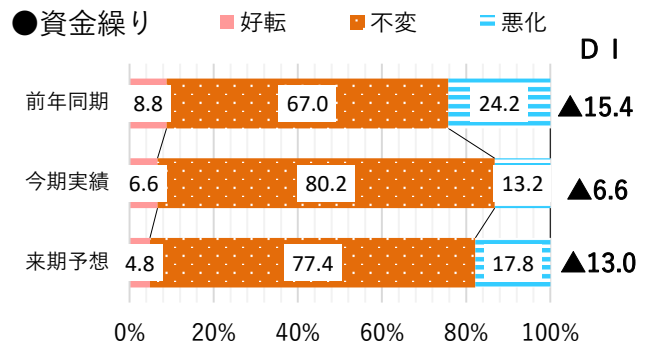
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	12
	不足	4
不変だった	過剰	2
	適正	81
	不足	38
減少した	過剰	4
	適正	10
	不足	30

資金繰り、設備投資

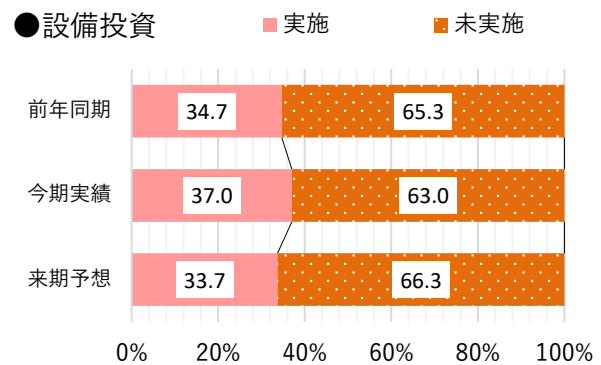
今期の資金繰りDIは▲6.6で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった181社の37.0%にあたる67社が実施、前年同期と比べ2.3%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、33.7%にあたる61社が設備投資を計画していると回答しています。

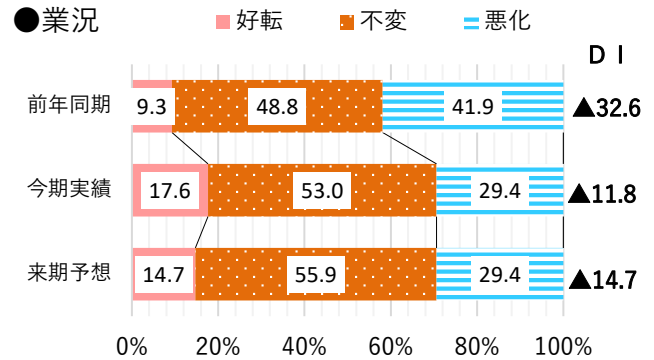


# 製造業

## 業況、売上、採算

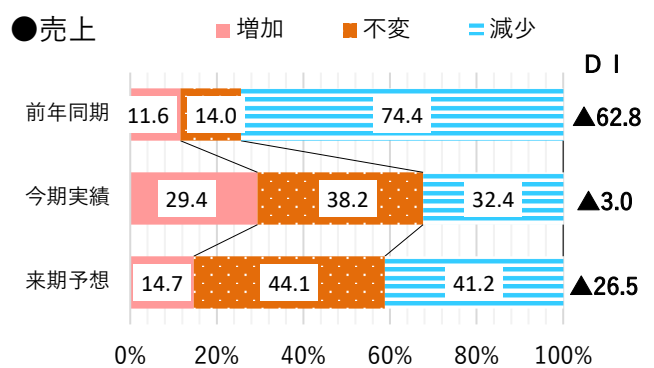
今期(2021.10~12)の業況判断DIは▲11.8で、前年同期(2020.10~12)と比べ20.8ポイント上昇しました。

来期(2022.1~3)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



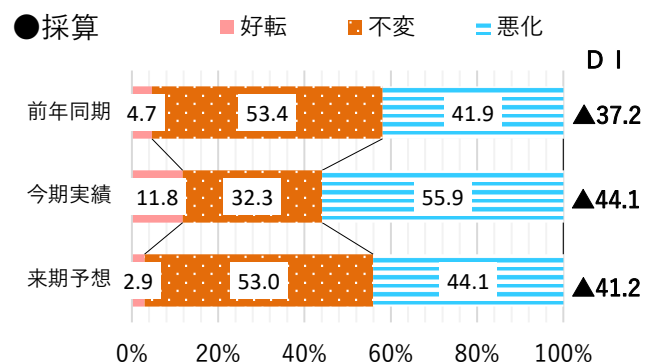
今期の売上DIは▲3.0で、前年同期と比べ59.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。

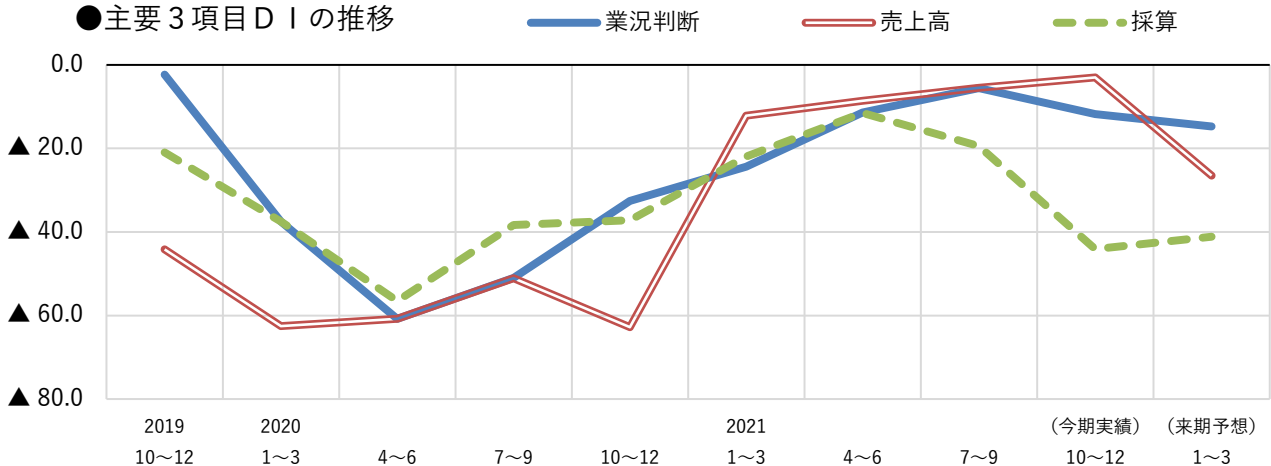


今期の採算DIは▲44.1で、前年同期と比べ6.9ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



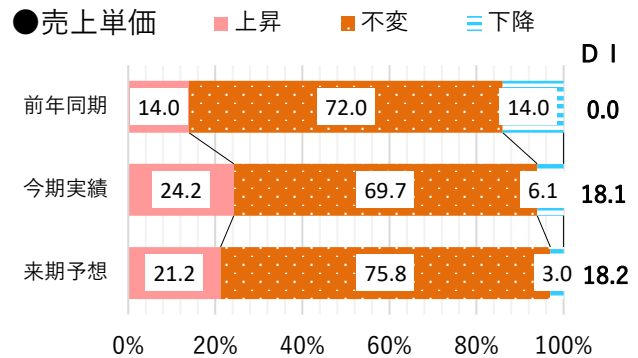
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

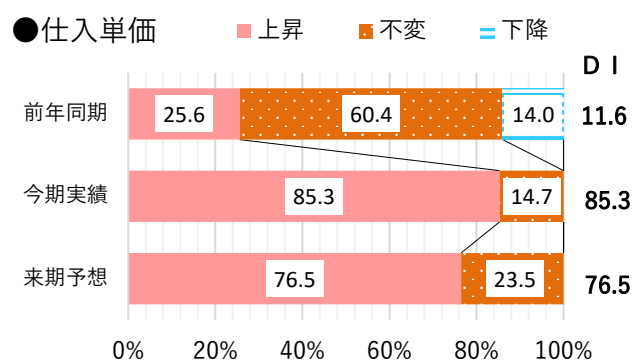
今期の売上単価DIは18.1で、前年同期と比べ18.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上単価のほぼ横ばいを予想しています。



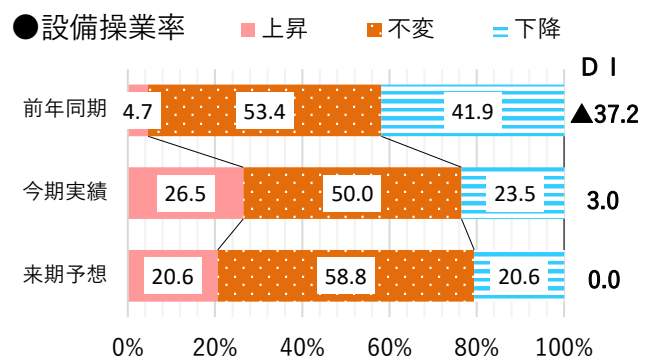
今期の仕入単価DIは85.3で、前年同期と比べ73.7ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは3.0で、前年同期と比べ40.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

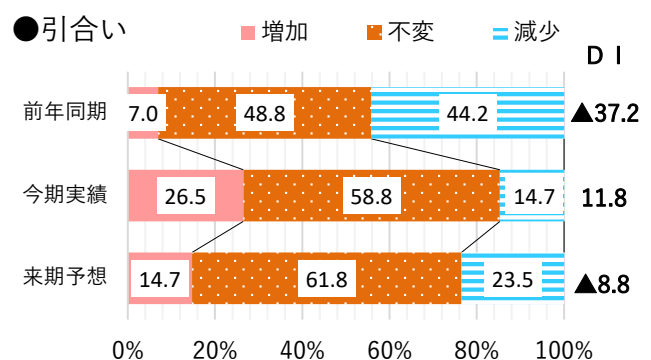
来期は、設備操業率の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは11.8で、前年同期と比べ49.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

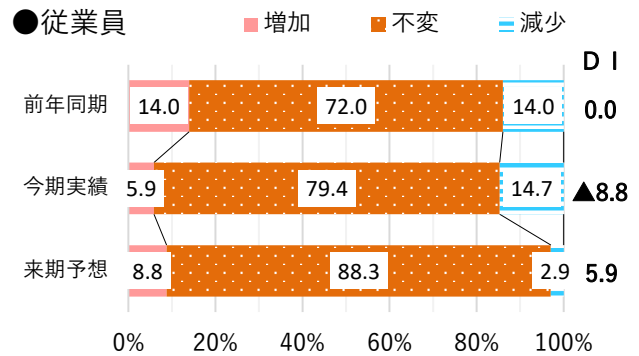
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



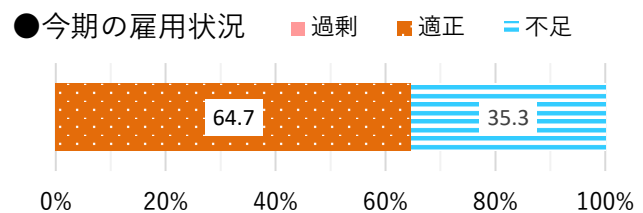
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.8で、前年同期と比べ8.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は35.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の58.8%を占めています。

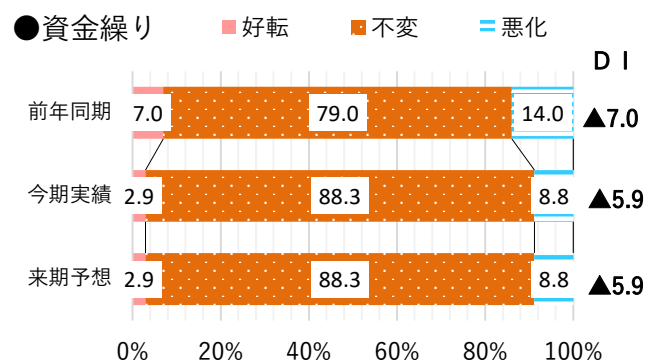
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	20
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	3

資金繰り、設備投資

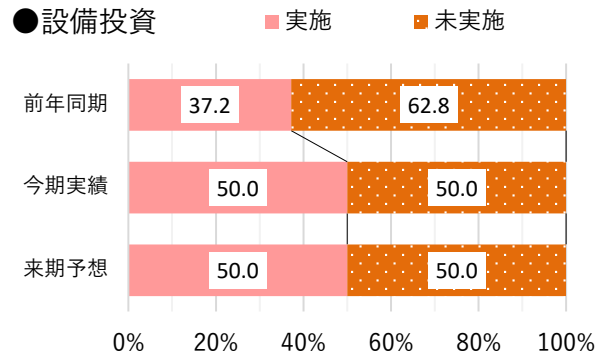
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



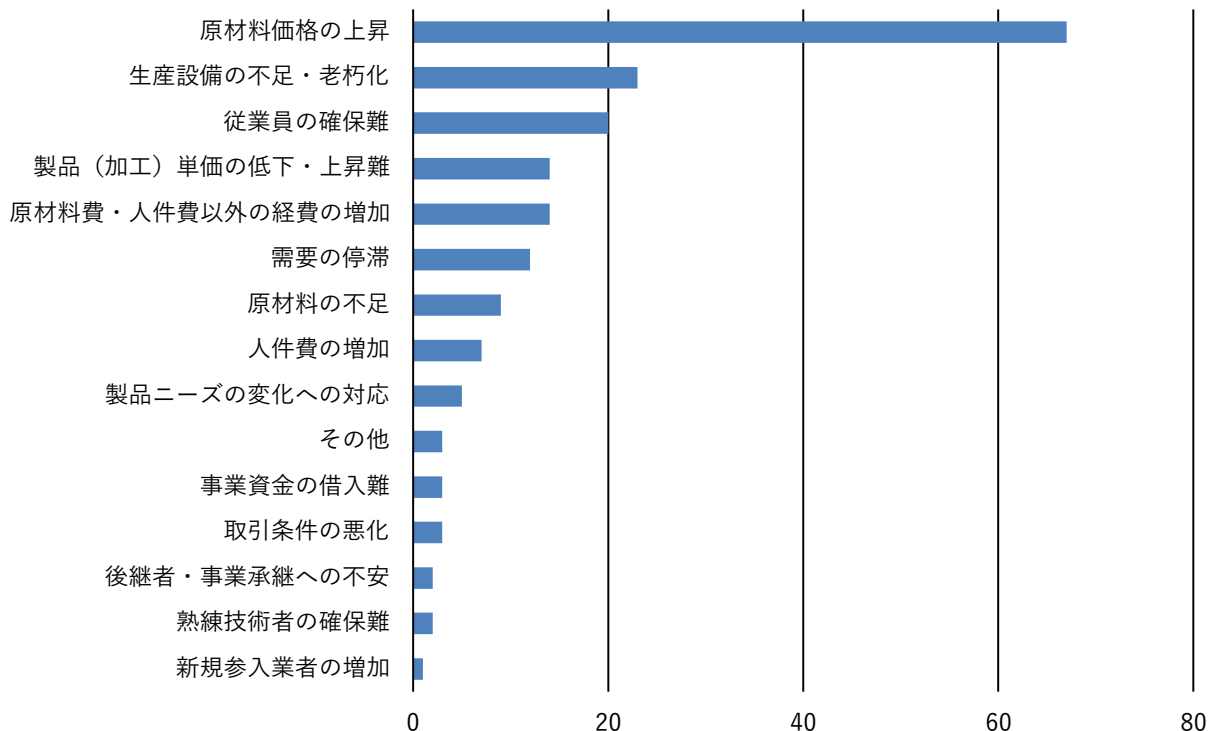
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ12.8%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、横ばいを予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 売上は増加したが、従来通りの利益の確保が難しい。契約単価が大幅に下降している訳ではないが、材料価格を販売価格に転嫁しきれていない。（金属製品）
- 金属材料の高騰が続いた。（金属製品）
- 設備更新の時期が迫っている。売上は伸び悩んだ。（ゴム製品）
- コロナ禍の影響は徐々に弱まっているが、今年度中は売上の減少が続くと思われる。主原料価格が高騰しているが、価格転嫁が不十分で、採算が悪化した。退職者分の人材は確保できたが、まだ不足している。賃金の見直しは終えた。（プラスチック）



- 政府から石油備蓄の放出があったが、原材料価格と電力料金は下降する見込みがないため、採算の好転は期待できない。製品価格への転嫁も難しい。(プラスチック)
- 原料価格が上昇しているが、売価改定が難しく、転嫁できていない。(プラスチック)
- 利益率が低下した。(機械器具)
- コロナ禍による不況から回復しつつある。(紙製品)
- 原材料、包装資材、燃料費の価格上昇により、採算が悪化した。数年に渡る最低賃金の上昇が徐々に経営を圧迫している。原価の上昇分をどれだけ販売価格に転嫁できるか、同業他社の動向を注視しながら模索している。(食料品)
- 売上は前年同期比117%と増加したが、仕入単価も上昇した。賃金は変わっていない。燃料費の高騰によって、運賃が上昇した。(食料品)
- 製造量は増加した。原材料価格の上昇や時給引き上げにより、経費が増加した。(食料品)
- 売上は微減、仕入価格は微増だった。従業員数は変わらない。賃金を引き上げた。(食料品)
- 新型コロナウイルスの影響はほとんどなかったが、工場人員の確保が難しい。(食料品)
- 土産品需要が戻り始めたが、単価が安く、忙しい割には売上につながらない。(食料品)
- 仕入価格が上昇したが、巣ごもり需要によって売上の減少は抑えられた。(食料品)
- 新酒の発売による売上の回復に取り組んだ。(飲料)
- 新型コロナウイルスの影響が続き、昨年の状況と大きな変化はなかった。(医薬品)

## [来期の業況について]

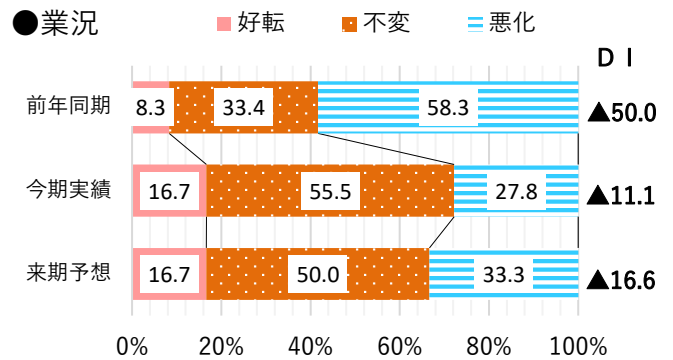
- 今期同様、引合いが増加すると思われるが、原材料の確保が課題だ。(金属製品)
- 先行きは不透明ながら、業況の好転を見込む。(ゴム製品)
- 受注の増加傾向と販売価格の上昇傾向を見る限り、売上の増加と採算の好転が見込まれるが、主原料の確保難と価格上昇が懸念される。(プラスチック)
- 製品価格の引き上げを受け入れない取引先との商売は無理に続けず、新規商材の販売増加に取り組む。(プラスチック)
- 原材料価格が再度上昇し、価格転嫁には年度一杯かかると思われる。(プラスチック)
- 平年並みに推移すると思われる。(機械器具)
- 加工食品関連企業への売上を中心に、回復傾向が続く。(紙製品)
- 年明けから原材料価格の大幅な値上げが控えており、販売価格へ転嫁できるかが勝負だ。4月から新卒社員が各部署に配属されるので、人員不足は緩和されると思う。(食料品)
- 仕入額や経費全般の上昇に対応するため、製品価格の改定を考えているが、売上の減少は避けられず、業況は悪化すると思われる。(食料品)
- 前年並みの売上を予想する。仕入価格は今期よりも上昇すると思われる。賃金は微増だった。(食料品)
- 中国向けの売上増加に伴い、業況は好転すると思われる。(食料品)
- 節分、ひな祭り等に合わせた販売促進策により売上の増加を図る。(飲料)
- 健康診断受診率の増加が見込めないため、大きな好転は期待できない。(医薬品)

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

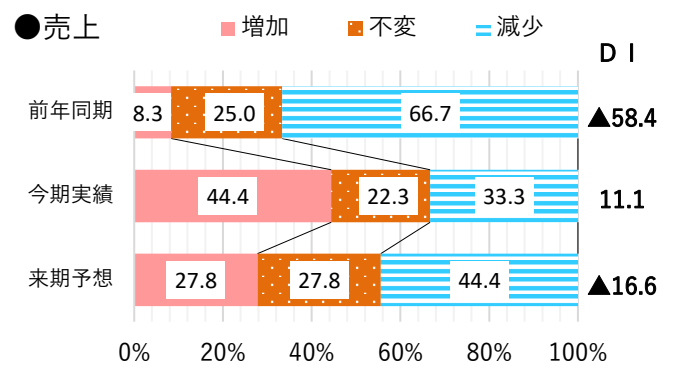
今期(2021.10~12)の業況判断DIは▲11.1で、前年同期(2020.10~12)と比べ38.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期(2022.1~3)は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



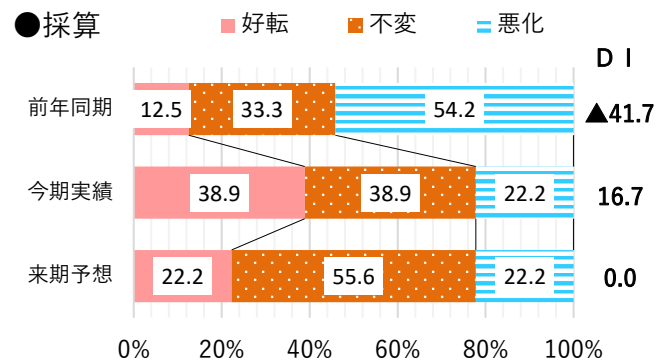
今期の売上DIは11.1で、前年同期と比べ69.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

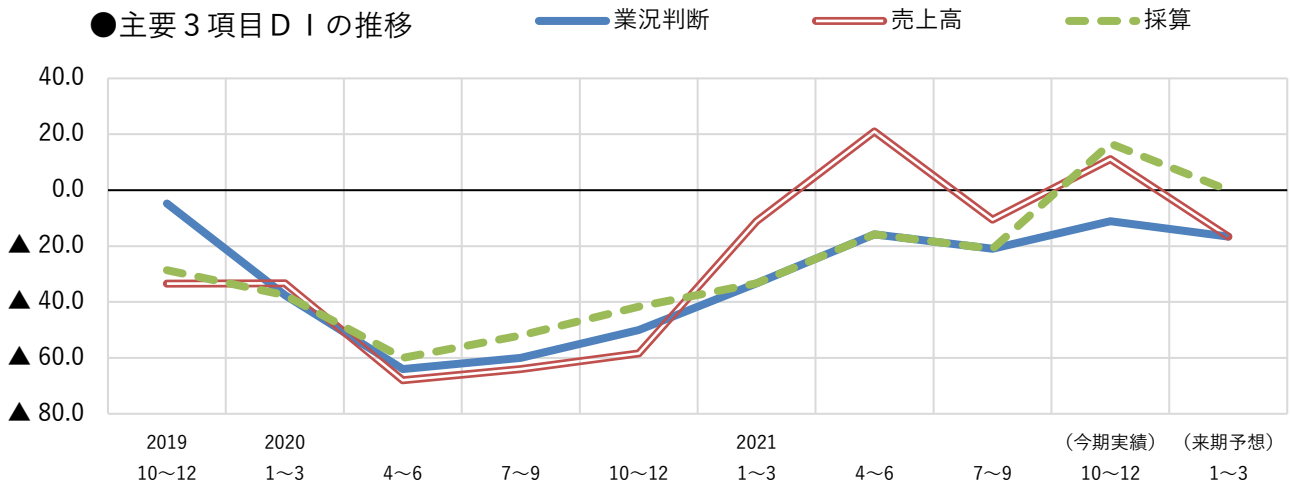


今期の採算DIは16.7で、前年同期と比べ58.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



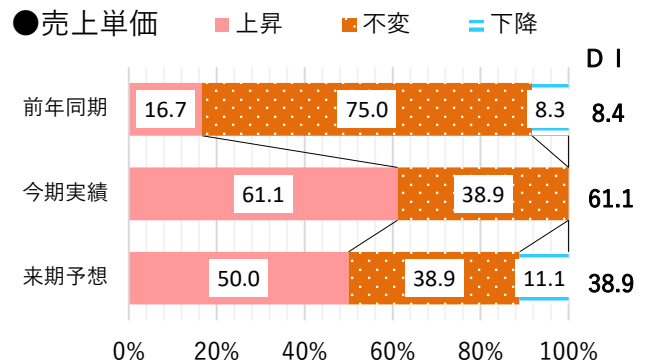
●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

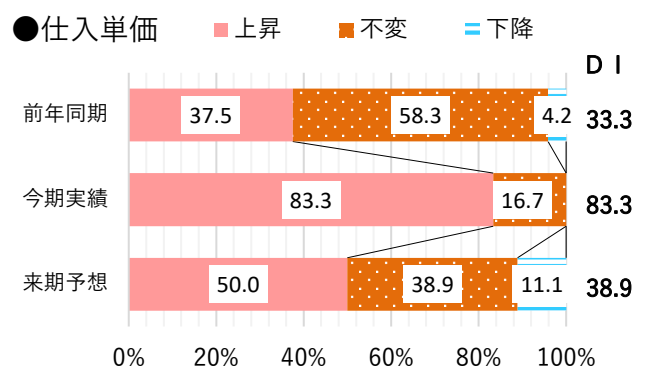
今期の売上単価DIは61.1で、前年同期と比べ52.7ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは83.3で、前年同期と比べ50.0ポイントと大幅に上昇しました。

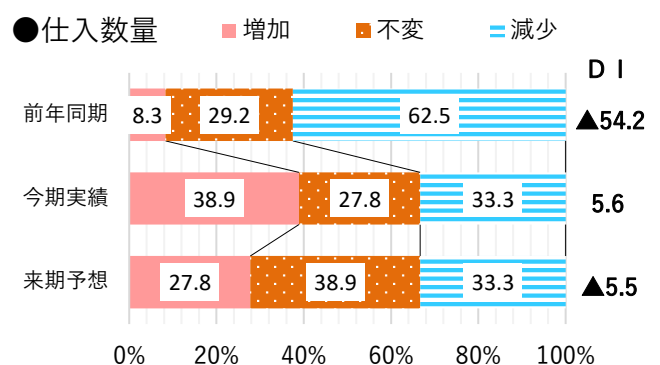
来期は、仕入単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

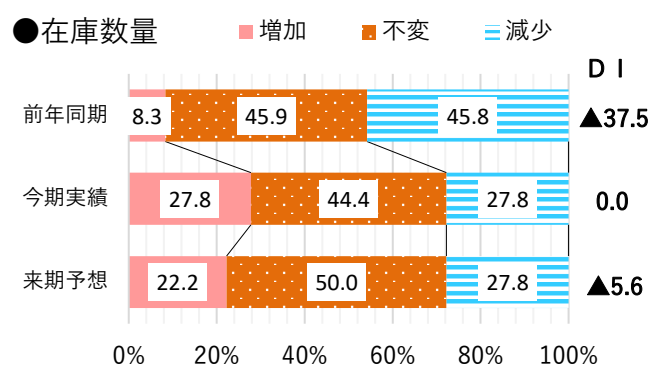
今期の仕入数量DIは5.6で、前年同期と比べ59.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入数量がマイナスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ37.5ポイントと大幅に上昇しました。

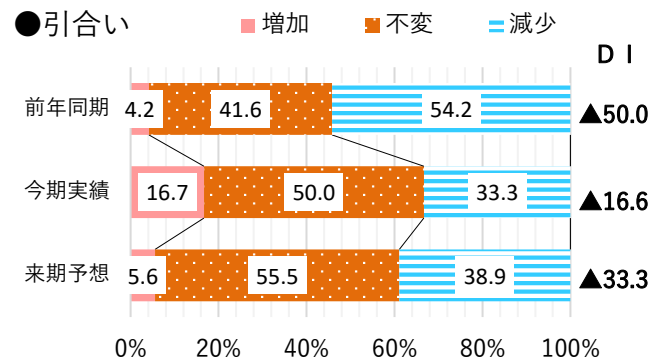
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは▲16.6で、前年同期と比べ33.4ポイントと大幅に上昇しました。

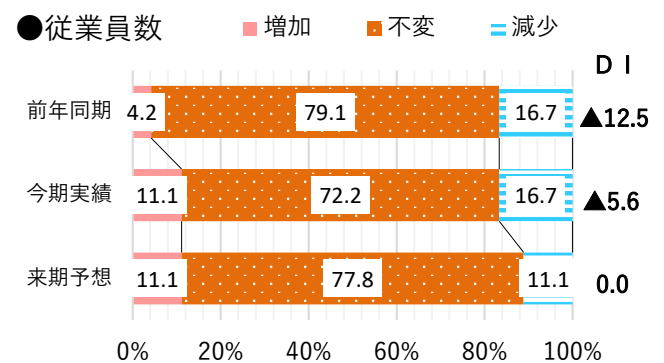
来期は、引合いの減少傾向が強まると予想しています。



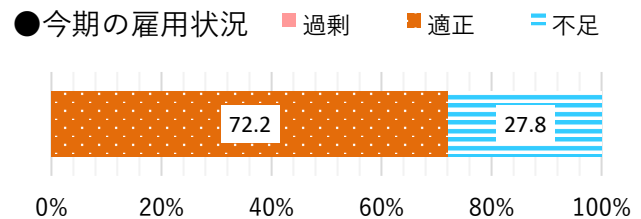
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.6で、前年同期と比べ6.9ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は72.2%、不足していると回答した企業の割合は27.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の72.2%を占めています。

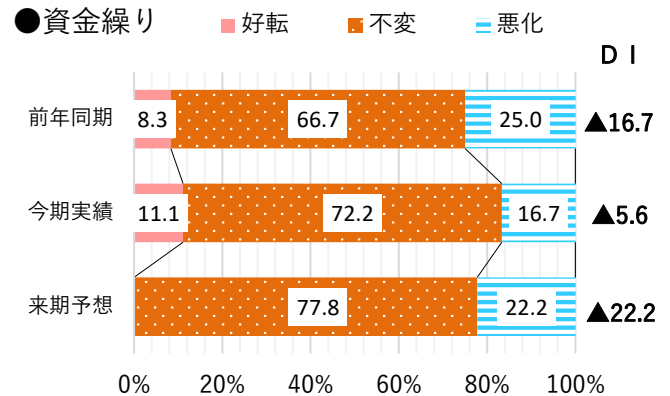
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	0
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

## 資金繰り、設備投資

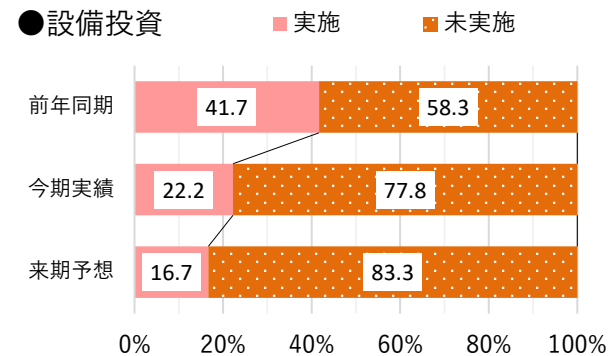
今期の資金繰りDIは▲5.6で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



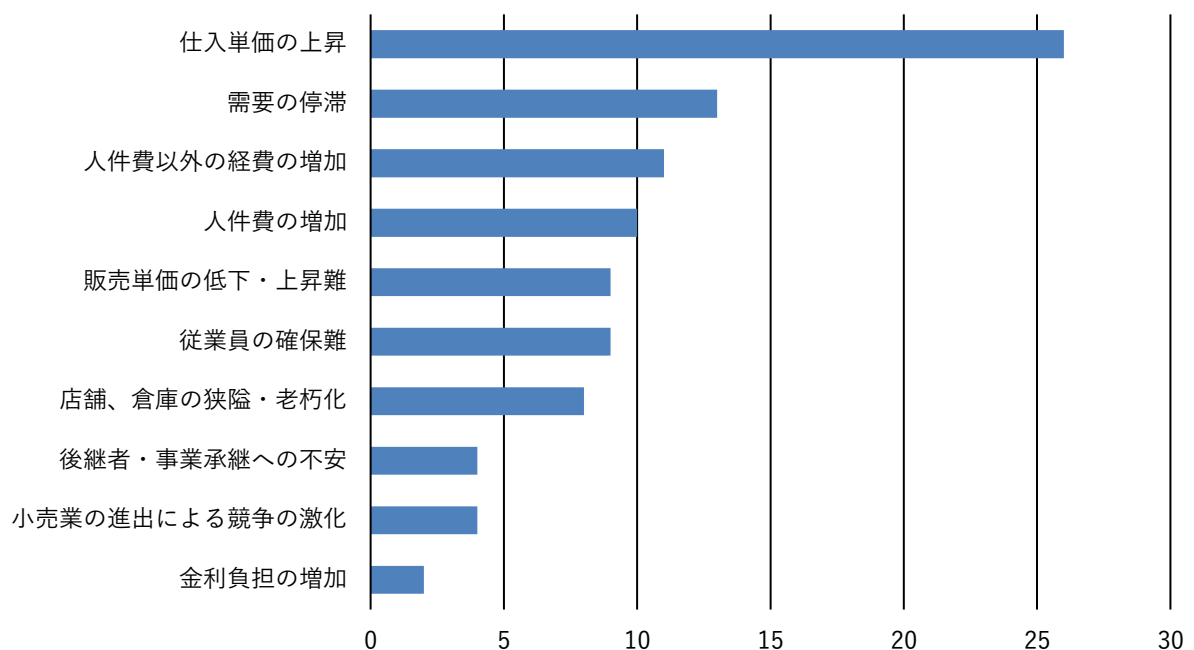
設備投資を実施した企業の割合は22.2%で、前年同期と比べ19.5%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は16.7%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 石油、石油製品の仕入価格が急騰し、価格転嫁が遅れたため、粗利益が減少した。また、買い控えの傾向が強まり、販売数量が減少した。(石油卸売)
- 秋以降の需要は例年並みに回復したが、度重なる仕入価格の値上げと、一部商品の欠品や納期遅れによって進捗が遅れている工事もあるため、多めに仕入れ、在庫の確保にも気を使っている。(建築材料卸売)
- 原材料や建築資材の仕入価格の高騰が激しく、販売価格に転嫁できずに苦労している。(建築材料卸売)
- 冬期用品(スタッドレスタイヤ、バッテリー、スノーブレード他)の売上が増加した。(自動車部品卸売)
- 商品仕入単価の上昇が続いており、販売量は落ち込んだが、売上は増加した。(鉱物・金属材料卸売)
- 商品の納入先が増加し、売上が増加した。(食料・飲料卸売)
- 10月の売上はコロナ禍前の水準まで回復したが、11月、12月は昨年より悪化した。(塗料販売)

## [来期の業況について]

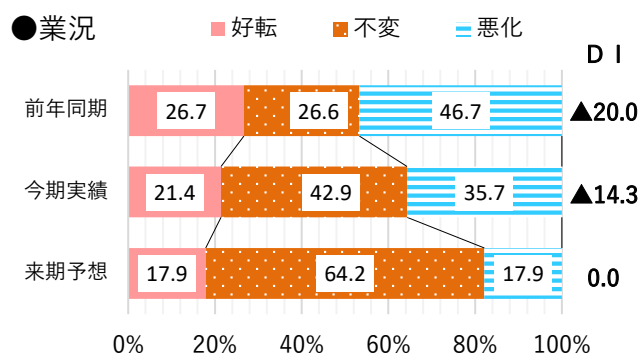
- 石油価格の高止まりにより、厳しい状況が続くと思われる。(石油卸売)
- 閑散期だが、仕入価格の値上げは続くと思われる。商品への価格転嫁を上手く進められるかが課題となる。資材の大幅な値上げで、需要が停滞しないか不安に感じている。(建築材料卸売)
- 原材料や建築資材の仕入価格の高止まりが続くと思われる。(建築材料卸売)
- 降雪量が多ければ、除排雪や板金関連の仕事が増える。(自動車部品卸売)
- 引合いが少なく、苦戦を予想する。仕入単価の下落も想定し、在庫量を抑えたい。(鉱物・金属材料卸売)
- コロナ禍前の水準まで売上を回復したい。(塗料販売)
- 仕入価格が10~20%上がるので、エンドユーザーに値上げをお願いするしかない。(事務用品卸売)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

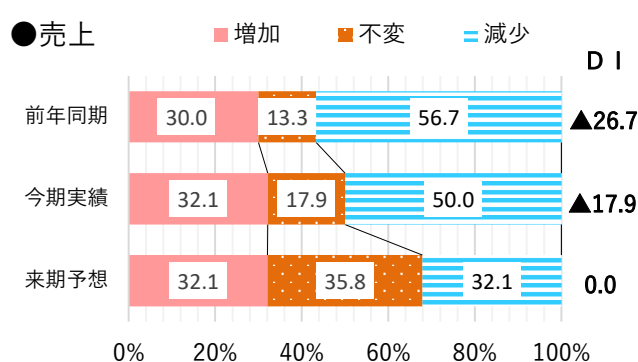
今期(2021.10~12)の業況判断DIは▲14.3で、前年同期(2020.10~12)と比べ5.7ポイント上昇しました。

来期(2022.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



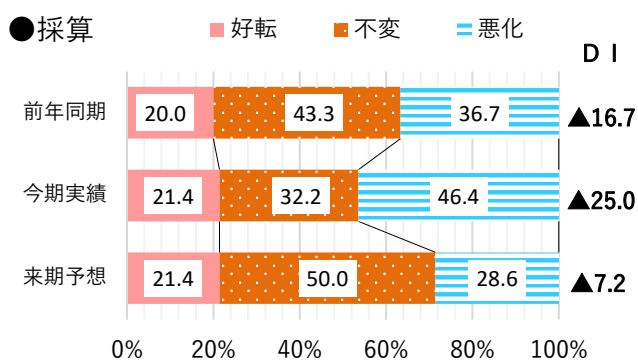
今期の売上高DIは▲17.9で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

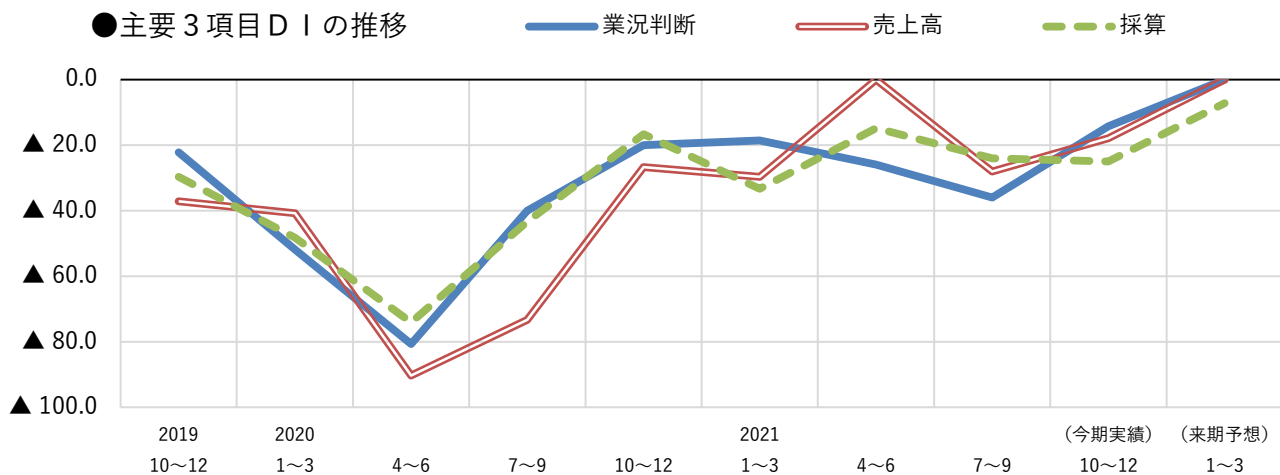


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



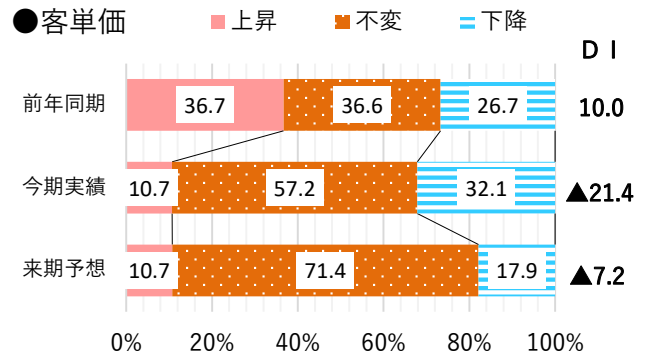
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

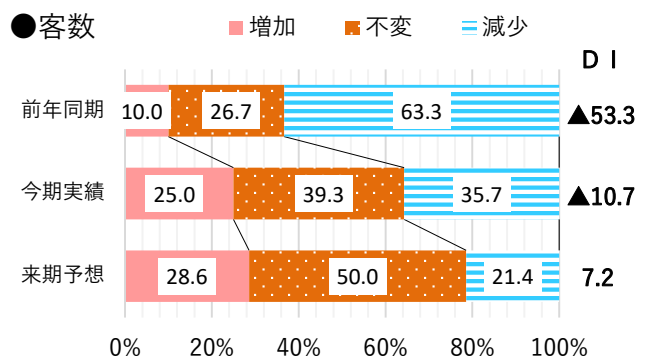
今期の客単価DIは▲21.4で、前年同期と比べ31.4ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲10.7で、前年同期と比べ42.6ポイントと大幅に上昇しました。

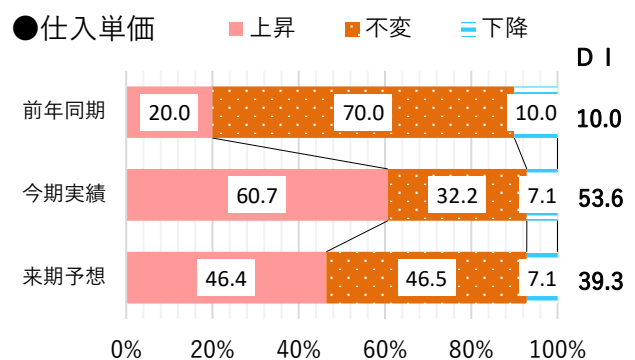
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

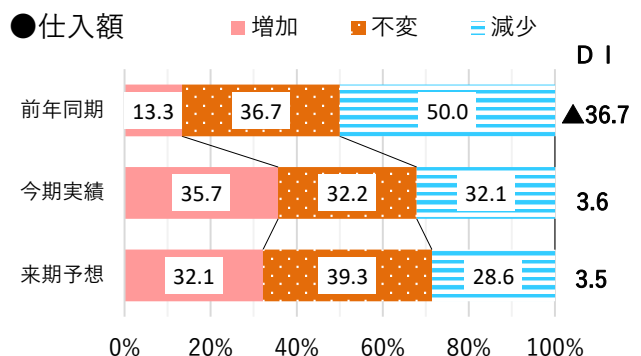
今期の仕入単価DIは53.6で、前年同期と比べ43.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入額DIは3.6で、前年同期と比べ40.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

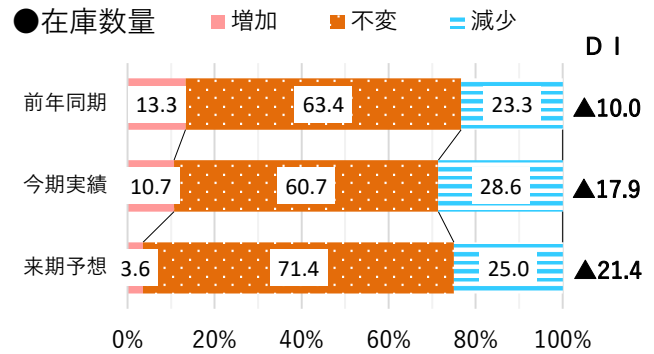
来期は、仕入額のほぼ横ばいを予想しています。





今期の在庫数量DIは▲17.9で、前年同期と比べ7.9ポイント低下しました。

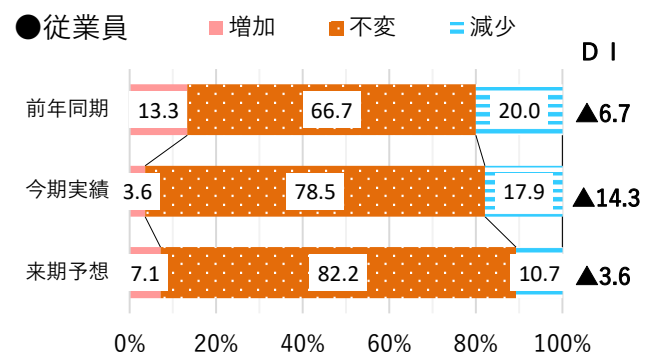
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



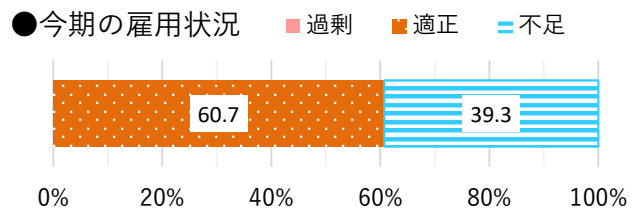
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲14.3で、前年同期と比べ7.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は39.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の53.5%を占めています。

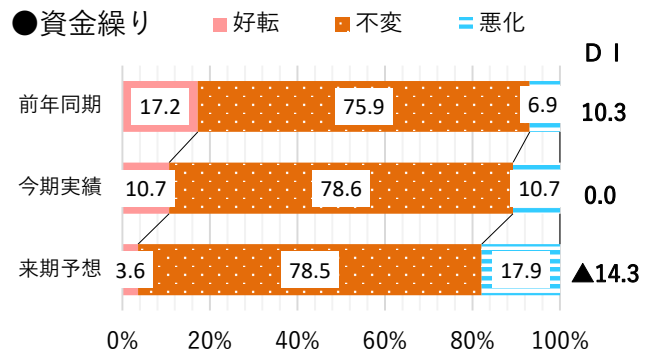
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

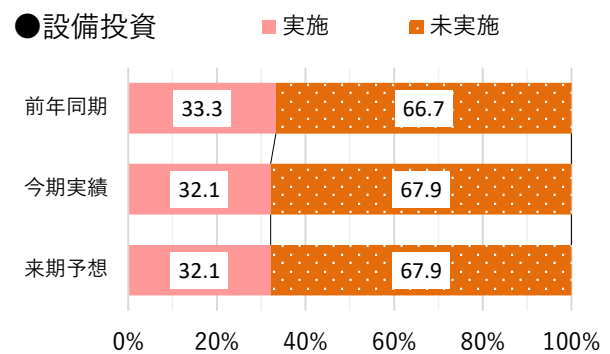
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ10.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りが悪化に転じると予想しています。



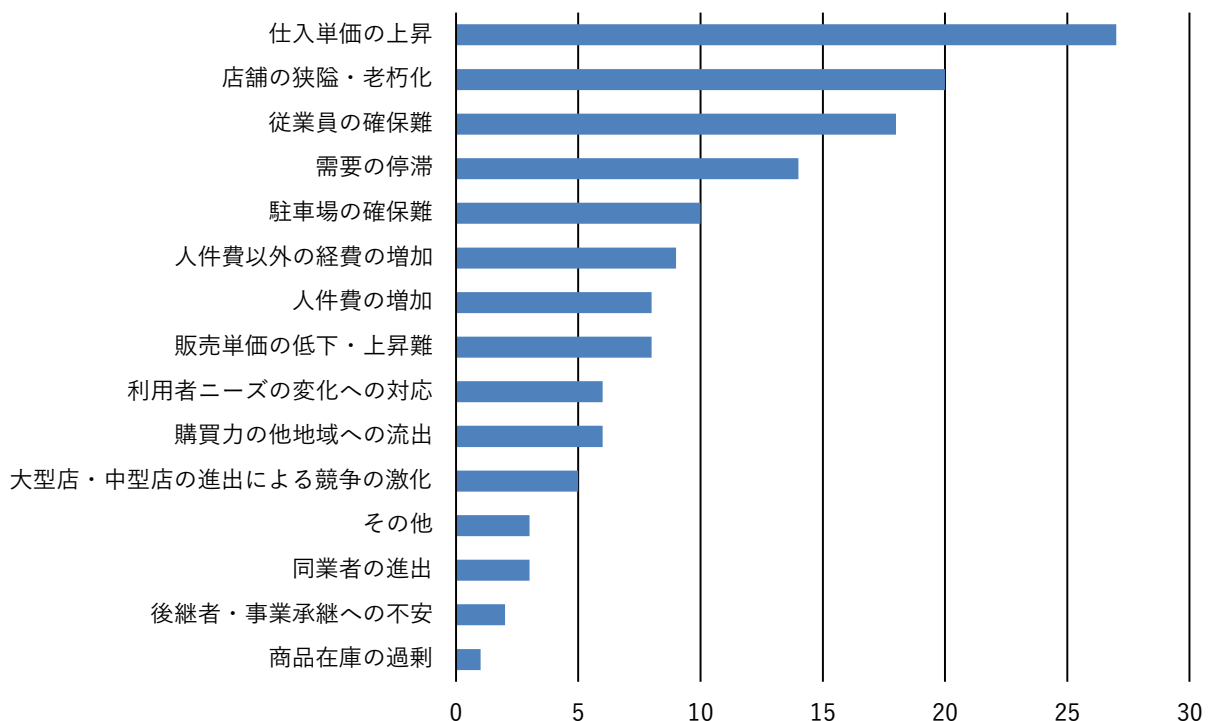
設備投資を実施した企業の割合は32.1%で、前年同期と比べ1.2%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「販売設備」、3位が「車両運搬具」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は32.1%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 緊急事態宣言が明けてからは、飲食業、観光関連施設を中心に売上が回復した。店頭売上とネット通販の売上はともに堅調に推移した。(食料品小売)
- 原材料費、光熱費、包装資材価格等あらゆるものの値上がりや、コロナ禍による不況から回復する間もなく最低賃金が引き上げられたことで、業況の回復が遅れている。(菓子製造小売)
- 客数が減少した。仕入品の未着が多数発生しているが、プレミアム商品券の利用が多く、売上はある程度確保できた。広告費は倍増した。(衣服・身の回り品小売)
- 内装、外装のリフォームが好調で、業績が伸びた。(家具・建具・畳小売)
- 半導体と部品の不足により、車両生産台数の減少や新車の納車に時間がかかり、売上が減少した。下取り車両が未入庫のため、中古車が品不足の状態にある。(自動車小売)
- 去年はコロナ禍のため、売上が伸び悩んだが、今期は売上と利益がともに増加した。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響で、車での外出が少なくなり、業況は悪化した。(自動車小売)
- コロナ禍による減収から幾分回復した。人や観光も動き始めており、売上と客数が増加した。(大型店)
- バスの減便、観光客の減少で客数が回復していない。(大型店)
- 原油価格の高止まりで、燃料の市場価格が上昇した。商売に逆風が吹いている。(燃料小売)
- 取引先は新型コロナウイルスの影響から多少回復しているようだが、自社は忘年会や新年会に係る売上が全くなく、苦しい状況が続いている。(コンビニ)
- 売上と利用客数の減少、人手不足、最低賃金の上昇で採算が悪化した。(コンビニ)
- 少しずつ客足が戻っているが、まだまだ業況は厳しい。(ドラッグストア)
- コロナ禍の影響が小さくなり、業況は好転した。(花・植木小売)

## [来期の業況について]

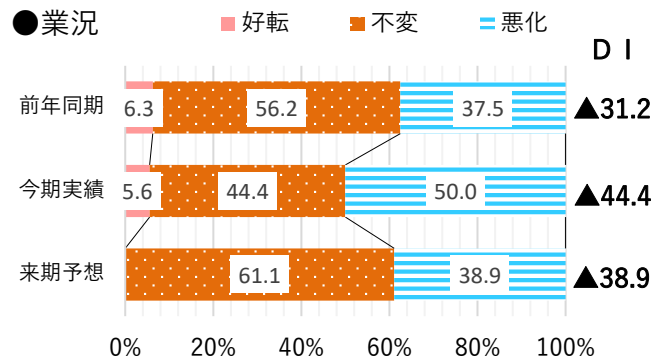
- 新型コロナウイルス変異株の影響で、先行きを見通せない。(食料品小売)
- あらゆるものが値上げされているため、自社商品の値上げも現実味を帯びてきている。(菓子製造小売)
- 仕入先を分散させ、商品未着のリスクを減らしたい。(衣服・身の回り品小売)
- 上昇した原材料価格の転嫁に苦労すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 半導体や自動車部品の不足は解決しないとわれ、業況の好転は期待できない。(自動車小売)
- 売上、利益は増加を見込むが、固定費と販売費の増加が懸念される。(自動車小売)
- 国内外の観光客数が回復し、店舗に付帯する施設の工事が終了すれば好転するだろう。(大型店)
- 回復傾向が強まると予想する。客数増加と客単価上昇を見込む。(大型店)
- 新型コロナウイルス第6波や、変異株の拡大があれば、さっぽろ雪まつりや小樽雪あかりの路などのイベントは開催できないと思う。(コンビニ)
- 新型コロナウイルス変異株が流行するのではないかと、不安を感じている。(コンビニ)
- 新型コロナウイルス第6波の状況によっては、業況の悪化が続くと思われる。(ドラッグストア)
- 資金繰りは厳しくなると思われる。(花・植木小売)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

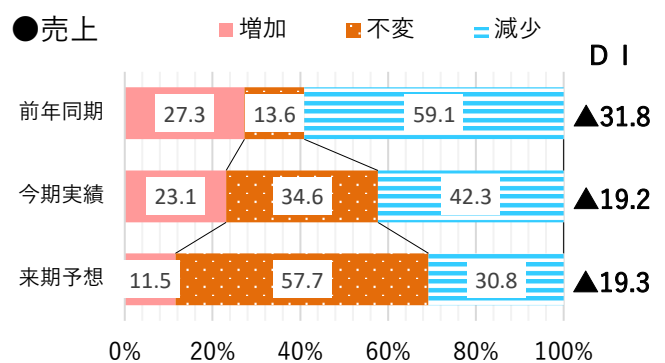
今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲44.4で、前年同期（2020.10～12）と比べ13.2ポイント低下しました。

来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



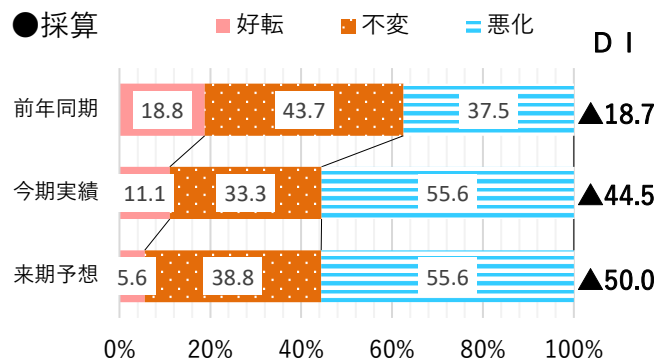
今期の売上高DIは▲19.2で、前年同期と比べ12.6ポイント上昇しました。

来期は、売上のほぼ横ばいを予想しています。

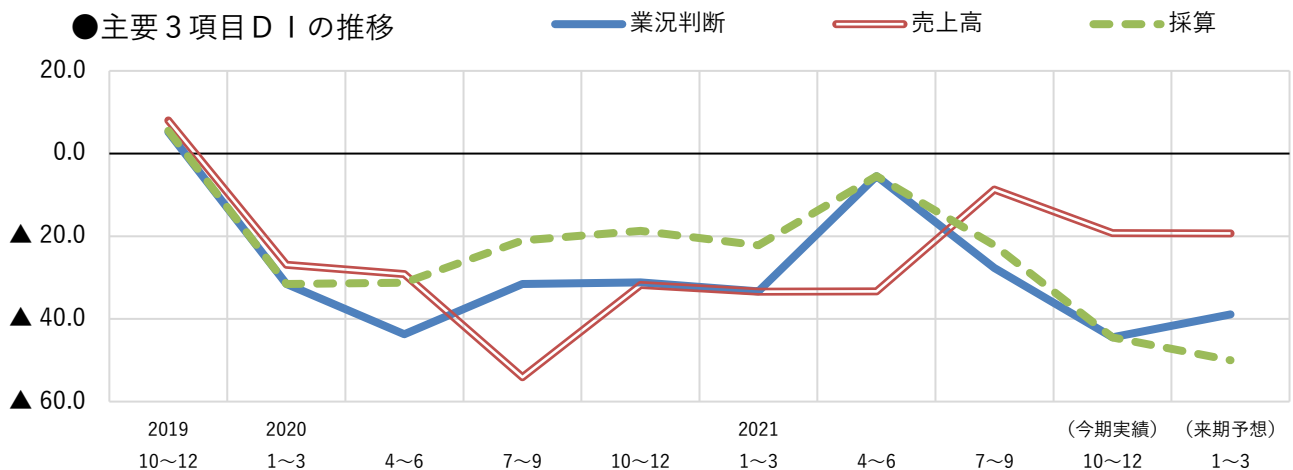


今期の採算DIは▲44.5で、前年同期と比べ25.8ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



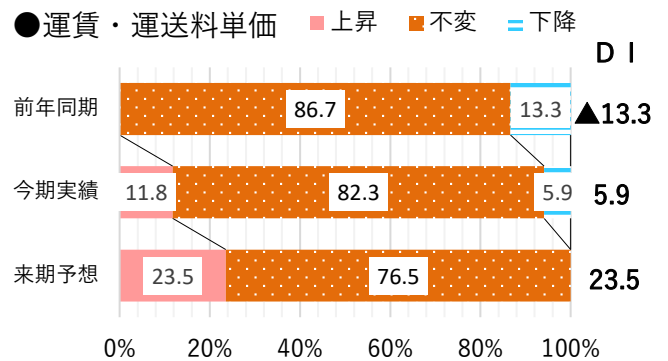
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

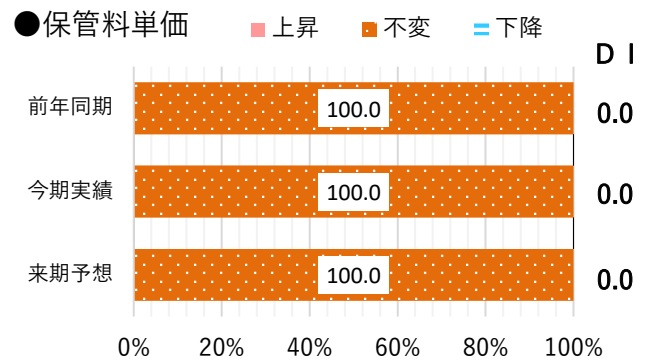
今期の運賃・運送料単価DIは5.9で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

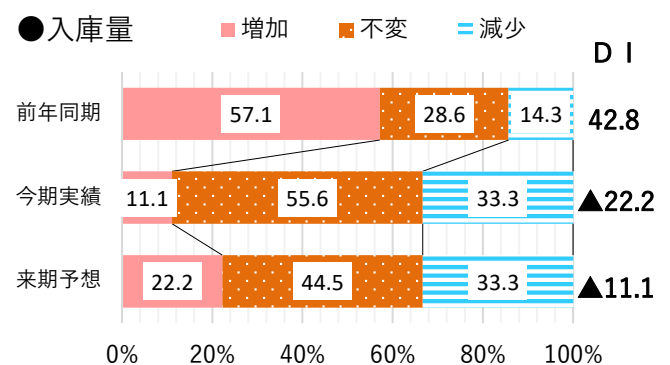
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

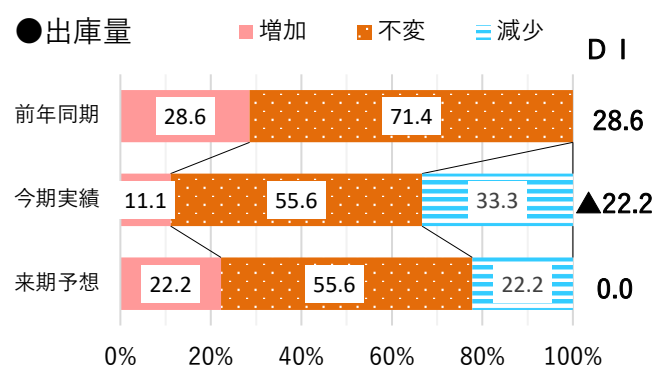
今期の入庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ65.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



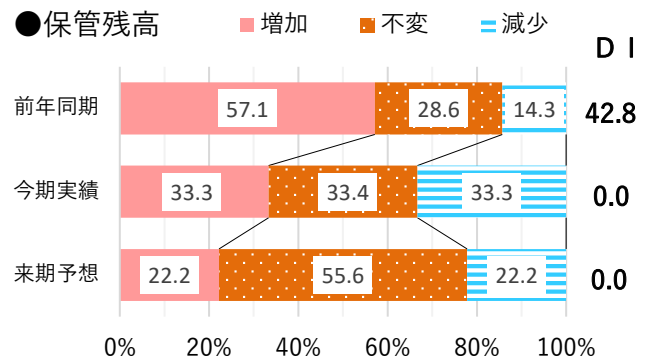
今期の出庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ50.8ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、出庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に低下しました。

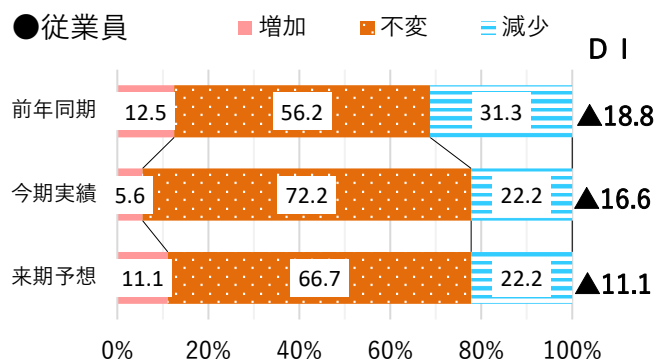
来期は、保管残高の横ばいを予想しています。



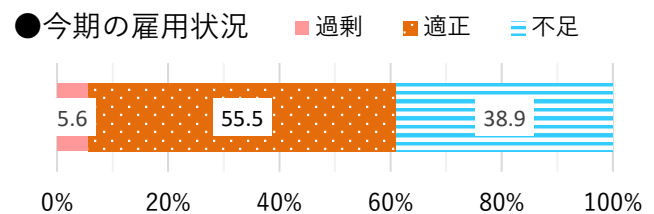
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.6で、前年同期と比べ2.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は55.5%、不足していると回答した企業の割合は38.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の44.4%を占めています。

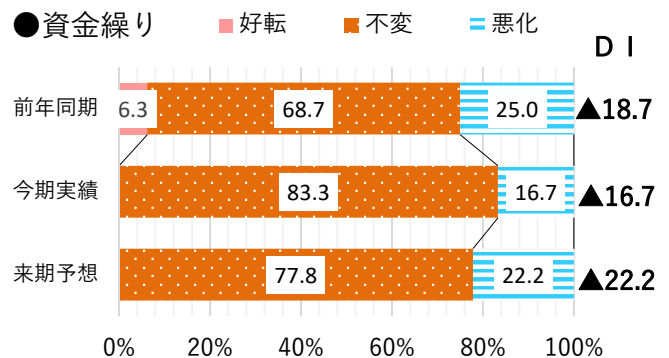
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	8
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

## 資金繰り、設備投資

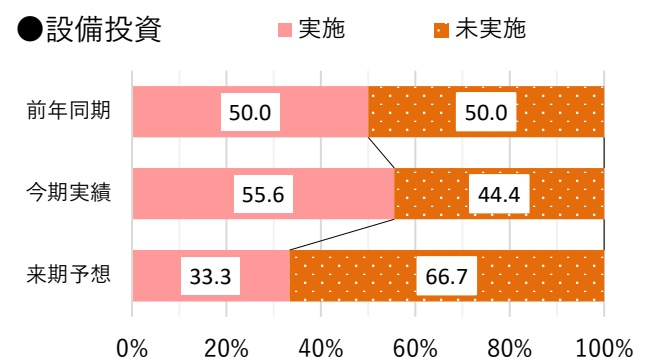
今期の資金繰りDIは▲16.7で、前年同期と比べ2.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



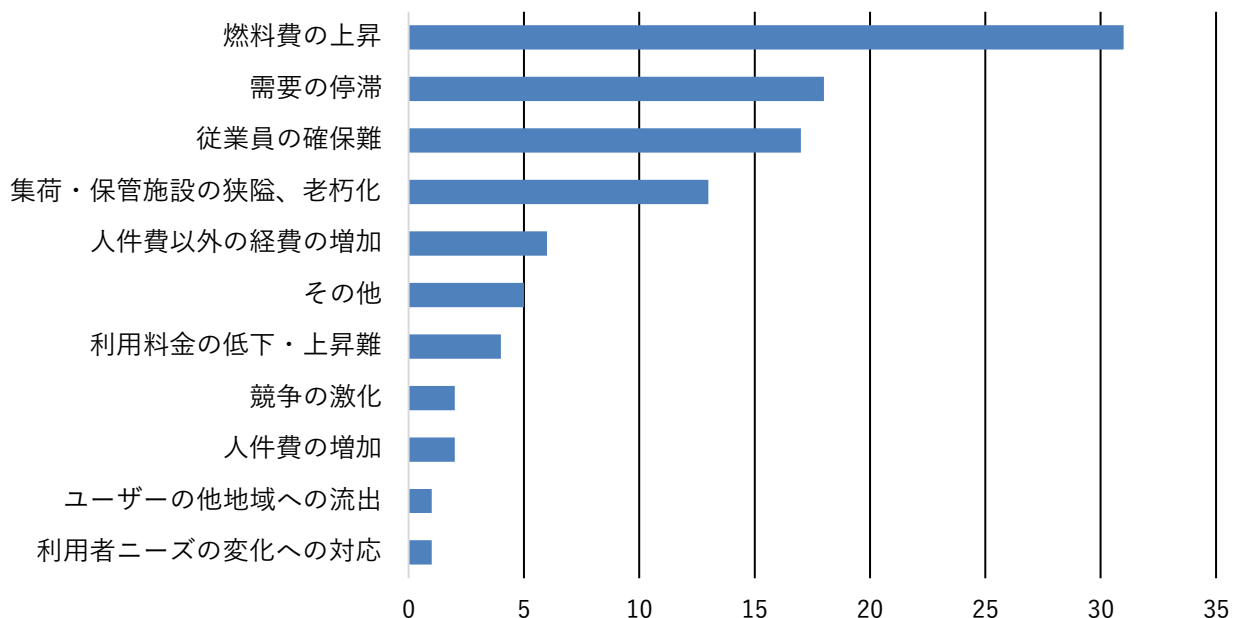
設備投資を実施した企業の割合は55.6%で、前年同期と比べ5.6ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 荷主の製品価格改定で、12月の需要が一時的に増加したが、今期全体の出荷量が減少しているため、業況は悪化した。(道路貨物運送)
- 輸送量の減少により、売上が減少した。運賃は横ばいだが、人件費と燃料費が増加し、採算が悪化した。(道路貨物運送)
- 前年同期比の売上は若干増加したが、コロナ禍前と比べるとまだ回復できていない。(道路貨物運送)
- 燃料費の大幅な上昇によって、利益が圧迫された。(道路貨物運送)
- 燃料費が大幅に上昇した。(道路貨物運送)
- 12月の業況は回復したが、10月、11月が伸び悩んだ。観光客が減少し、長距離移動の利用が少ないことが影響した。燃料価格は高い水準にある。(道路旅客運送)
- 貨物(融雪剤)の減少と入庫時期のずれにより、対前年同期比での倉庫収益及び輸送収益が減少した。(道路旅客運送)
- 行動制限は緩和されたが、消費マインドは冷え切っており、業況は変わらない。(道路旅客運送)
- 前年同期比で売上が増加した。(道路旅客運送)
- 在庫量、出庫量ともに不変だった。(倉庫)
- 依然として新型コロナウイルスの影響により、旅客の減少が続いている。昨年同期はGoToトラベルにより回復傾向が見られたが、今年はその反動で悪化した。干ばつによる農作物の収穫量減少や、経済活動の停滞により、減少した輸送量は回復していない。(水運)

## [来期の業況について]

- 燃料価格が下降しなければ、業況の回復は見込めない。(道路貨物運送)
- 業務単価の交渉次第だが、好転すると思われる。(道路貨物運送)
- 業況は今期と変わらないと思われる。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇が続くと思われる。(道路貨物運送)
- 売上は回復傾向にあるが、変異株の出現もあり、消費マインドが回復するの不安を感じている。燃料価格はしばらくの間高止まりが予想される。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスにより、業況は見通せない。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少と、出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 旅客輸送のピークが過ぎ、船舶の定期検査の時期でもあるため、引き続き旅客が減少すると思われる。また、燃料価格の上昇が懸念される。干ばつで農作物の収穫量と輸送量が減少する懸念がある。依然として経済活動の停滞が続くと思われる。(水運)



# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲42.9で、前年同期(2020.10～12)と比べ39.4ポイントと大幅に上昇しました。

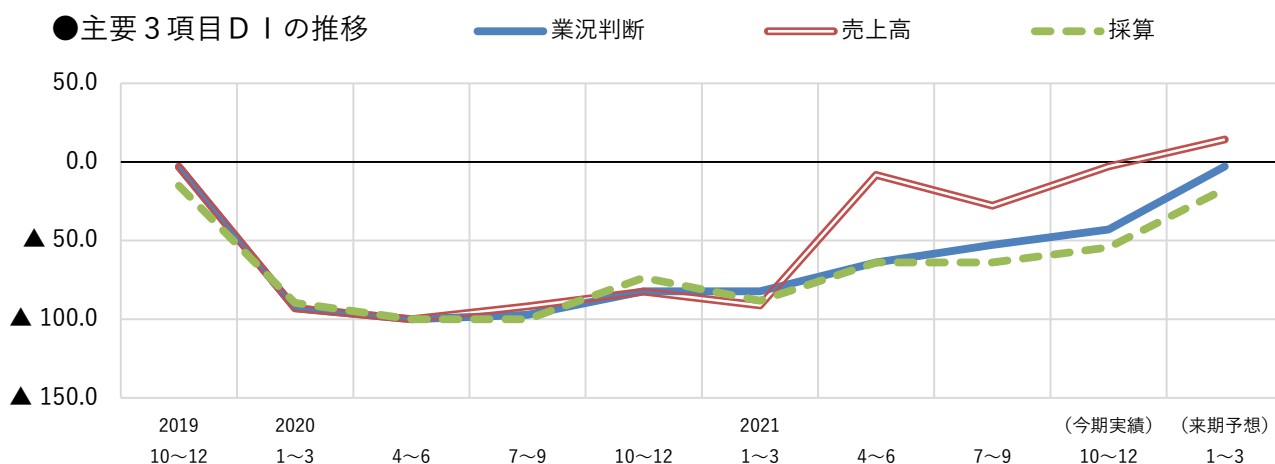
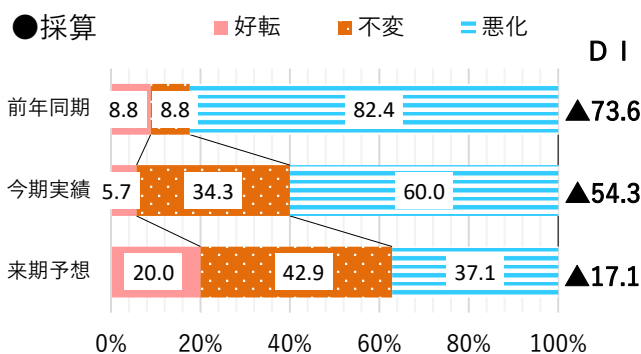
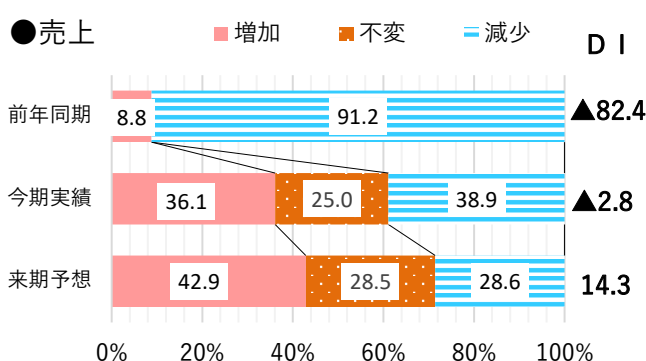
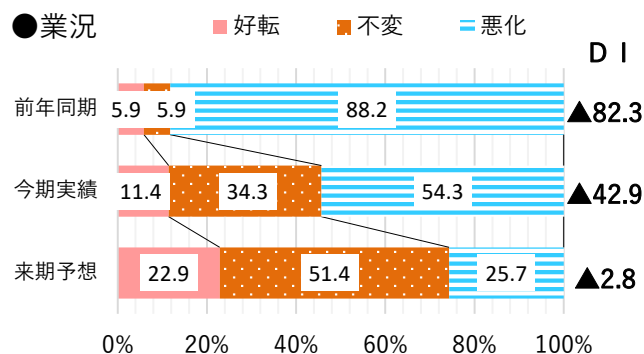
来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲2.8で、前年同期と比べ79.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

今期の採算DIは▲54.3で、前年同期と比べ19.3ポイント上昇しました。

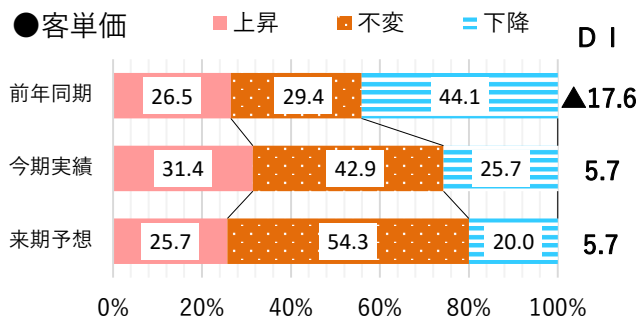
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

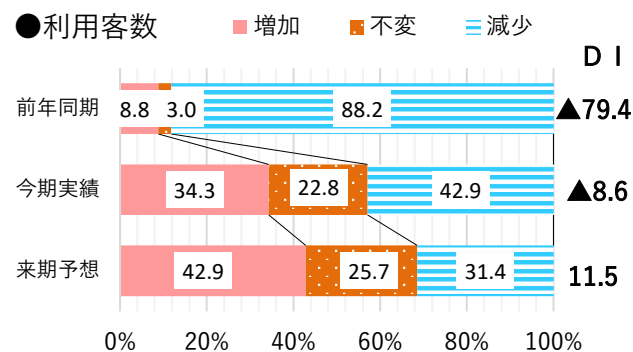
今期の客単価DIは5.7で、前年同期と比べ23.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の横ばいを予想しています。



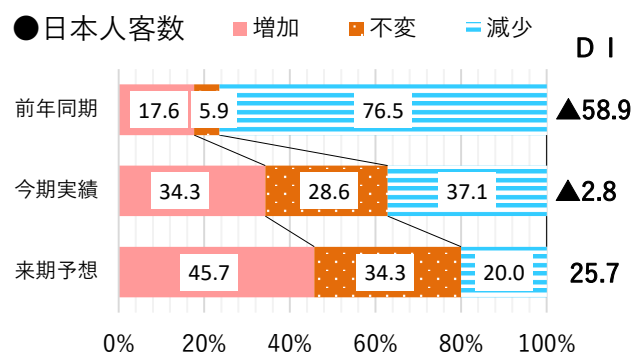
今期の利用客数DIは▲8.6で、前年同期と比べ70.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、利用客数がプラスに転じると予想しています。



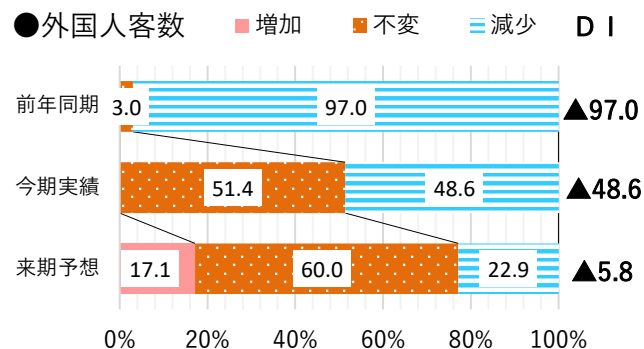
今期の日本人客数DIは▲2.8で、前年同期と比べ56.1ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、日本人客数がプラスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲48.6で、前年同期と比べ48.4ポイントと大幅に上昇しました。

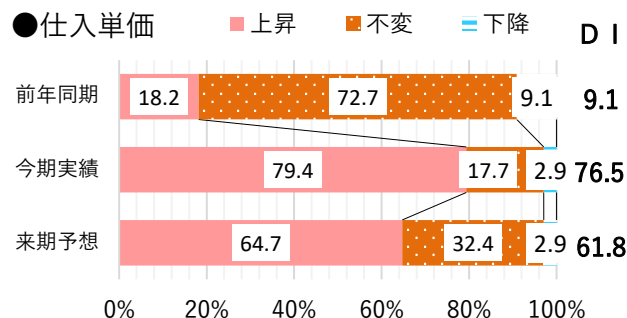
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは76.5で、前年同期と比べ67.4ポイントと大幅に上昇しました。

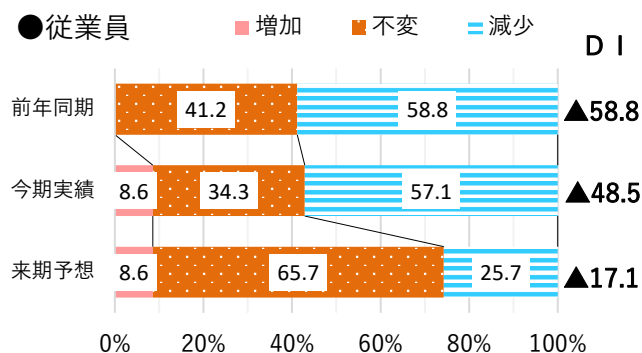
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



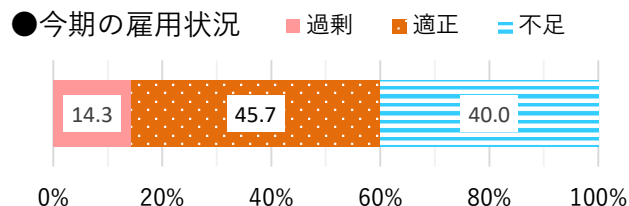
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲48.5で、前年同期と比べ10.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は14.3%、適正であると回答した企業の割合は45.7%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、観光業全体の31.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	8
	不足	3
減少した	過剰	4
	適正	5
	不足	11

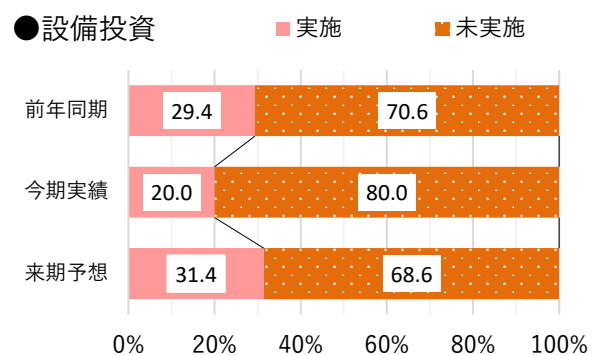
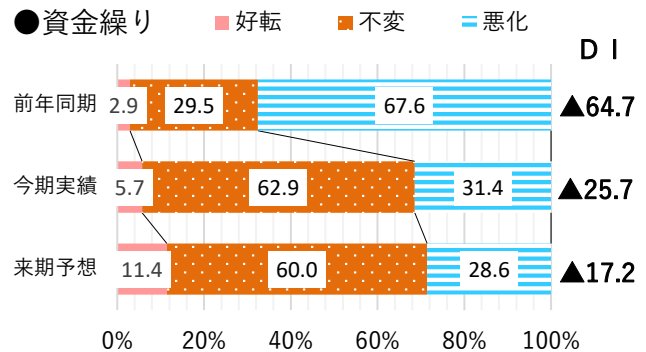
## 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲25.7で、前年同期と比べ39.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は20.0%で、前年同期と比べて9.4%減少しました。投資内容は、1位が「付帯施設」、「サービス設備」、「その他」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は31.4%で、増加を予想しています。

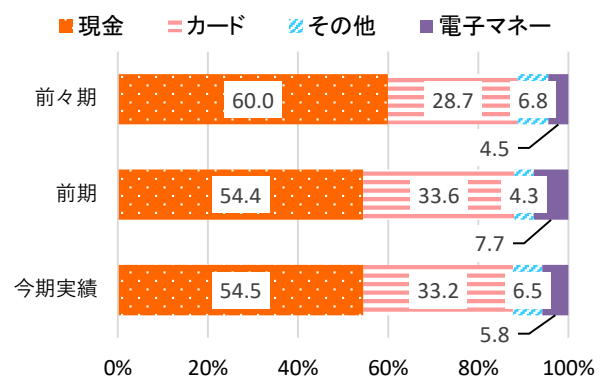


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で54.5%、2位がカードで33.2%、3位がその他で6.5%、4位が電子マネーで5.8%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイート等の食事券、プレミアム商品券、クーポン券、掛売り、銀行振込、ネット決済、ポイント決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

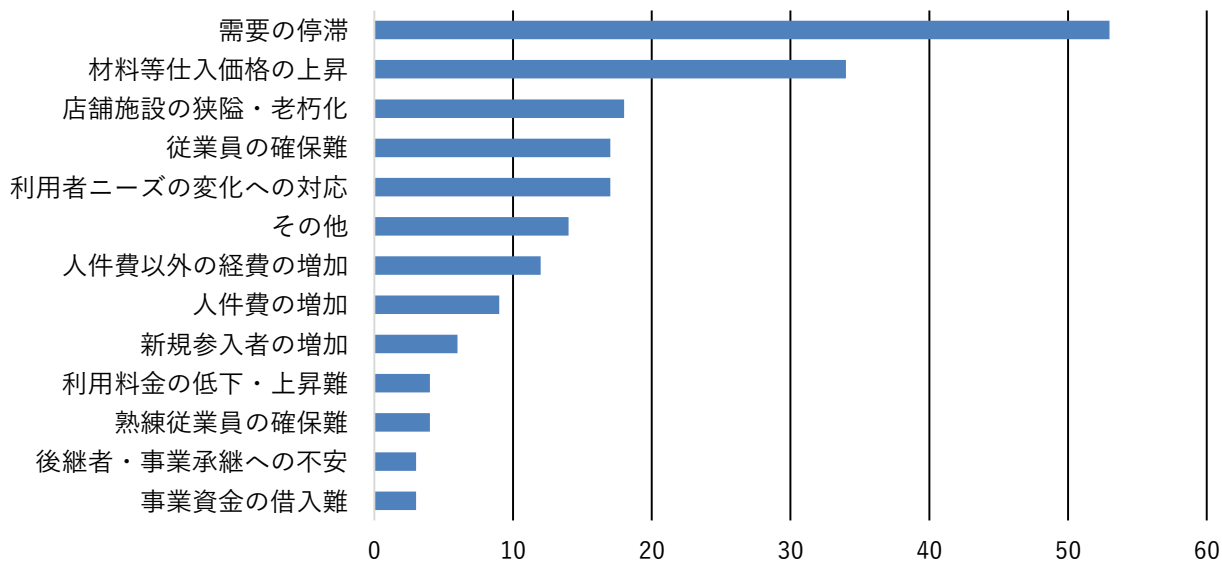


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は61.3%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 緊急事態宣言や外出自粛に伴い、長期に渡り需要が停滞していたが、11月から急激に需要が回復したため、人員を確保できていない。(ホテル)
- コロナ禍のため、インバウンドの利用が皆無で、国内企業は出張を減らしており、ビジネスホテルにとって厳しい状況にある。(ホテル)
- コロナ禍によるインバウンドの激減、海産物等仕入価格の上昇によって業況が悪化した。(ホテル)
- 稼働の波が激しく、求職者と条件が合わないことが多いため、求人に対する申込がない。(ホテル)
- 観光需要が回復せず、イベント等の観光資源にも期待できない。(ホテル)
- インバウンドの利用はない。(ホテル)
- コロナ禍前から売上の減少が続いている。各種経費が上昇し、業況は厳しい。(コテージ・ペンション)
- 11月後半から客足が減ったが、学生の利用が増えてきて、店内の雰囲気が和やかになったように思う。仕入単価の上昇を受けて、メニューの価格の引き上げを検討している。(飲食店)
- 10月は新型コロナウイルスの影響で失速したが、昨年同期比の売上や利用客数は増加した。(飲食店)
- インバウンドの減少で業況は悪化した。従業員数も減少した。(飲食店)
- 緊急事態宣言が解除され、人流と売上は回復傾向にある。(飲食店)
- コロナ禍による業況の悪化が深刻で、改善の兆しは無い。(飲食店)
- 緊急事態宣言解除後から、少しずつ客数が増え始めている。昨年はG o T oキャンペーンがあり、来店客に勢いを感じたが、今年は感じられない。コロナ禍前と比較した客数はまだまだ少ないので、公的な支援を増やしてほしい。収益源のインバウンドが回復せず、財政的に苦しい状況は変わらない。(土産品)
- 修学旅行とバスツアーによって利用客数が回復した。自治体の宿泊補助策もあり、観光客のお土産への支出額が増加傾向にある。(土産品)
- 土日の人通りは増えているが、平日は人通りが少なく、店を開けていても採算が合わない。(土産品)
- コロナ禍による外出自粛が根付いており、国民の行動様式に変化が生じたように思えない。(土産品)
- 売上は増加したが、原材料が値上がりしたため、採算は改善されていない。(土産品)
- コロナ禍で来なくなった観光客が戻らず、厳しい状況が続いている。(土産品)

- 10月から修学旅行客が増えた影響で、業況は少し良くなっている。(土産品)
- コロナ禍による観光客の減少で、業況が悪化した。(土産品)
- インバウンドの来店はゼロに等しい。(土産品)
- 昨年はGoToキャンペーンの影響で、レジャー利用が好調だった。今期も緊急事態宣言が解除されたため、回復傾向だったが、10～11月の売上は対前年比80～90%と前年割れだった。(レンタカー)
- 昨年よりも受注は多くなっているが、インバウンドの利用はない。(レンタカー)
- 9月末をもって緊急事態宣言が解除されたことにより、人流が徐々に回復している。10月の売上は、GoToトラベルの影響で良好だった昨年の実績を上回った。(社会教育)
- GoToトラベルがあった昨年同期と比較すると、客数、売上ともに同じ程度の水準を維持しているが、2019年の同期と比べると、客数、売上ともに4割程度減少した。(水運業)
- 天候に恵まれず、観光船利用者は減少した。観光駐車場の利用者も減少した。(船舶賃渡業)
- 前年同期と比べ、コロナ禍に伴う行動制限の影響は小さかった。(娯楽業)
- 仕入価格等が上昇傾向にあり、採算が悪化した。(娯楽業)

## [来期の業況について]

- 国内市場向けの施策により、業況はコロナ禍前の水準まで回復するものと思われる。入国が自由化されれば、インバウンド数も緩やかに回復すると思われる。(ホテル)
- インバウンドは当面回復せず、さっぽろ雪まつり等による集客も期待できない。近隣ホテルの新規開業もあり、好転する要素は見出しにくい。(ホテル)
- 国、地方からの補助金による客数の増加、客単価の上昇に期待する。(ホテル)
- コロナ禍がこのまま終息すれば、好転が見込まれる。(ホテル)
- 全体的に厳しい状況が続くと思われる。(ホテル)
- 給湯器、ボイラー等の確保が困難なため、営業に支障が出ないか心配だ。(コテージ・ペンション)
- インバウンドの集客は期待できないが、国内客の動きが活発になることで、売上が増加すると思われる。原材料の高騰による採算の悪化は避けられない。(飲食店)
- インバウンドの増加と、従業員不足の解消は見込めない。(飲食店)
- 業況は改善すると思う。(飲食店)
- 札幌圏、東京からの客数増加を期待する。GoToキャンペーン等、公的支援が早く始まってほしい。さっぽろ雪まつりの縮小開催により、冬期は厳しい業況が予想される。ガソリン、灯油をはじめ、経費や原価の高騰が止まらないので、苦戦を覚悟している。(土産品)
- 閑散期のため、売上や利用客数は減少すると思われるが、冬期のイベントやGoToキャンペーンが再開するなら、ある程度の回復は見込める。(土産品)
- 冬の観光を支えていたインバウンドが戻らず、業況の厳しさに変化はないと思われる。(土産品)
- 平日の人通りは当分回復しないと思われるので、対策を考えなければならない。(土産品)
- コロナ禍の終息が期待できないため、売上の停滞を見込む。(土産品)
- コロナ禍の影響で、売上の動向は全く読めない。(土産品)
- コロナ禍の終息により、業況の好転を予想する。(土産品)
- 人材確保が難しくなると思われる。(土産品)
- 今期末からレジャー利用者に占める道外客の割合が増加傾向にあるが、売上の総額に大きな変化はない。来期も同様の傾向が続くと思われる。インバウンドは見込めないため、国内レジャー利用者数の回復に期待する。(レンタカー)
- 先行きは不透明だ。(レンタカー)
- 今期の流れがある程度継続すると思われるが、インバウンドが見込めないため、一昨年以前の水準までは回復しないと思われる。(社会教育)
- 閑散期のため、客数と売上が減少すると思われる。(水運業)
- 新型コロナウイルスが終息し、通常営業に戻れば、業況も改善すると思う。(船舶賃渡業)
- 受注が上向きの部門で、売上の増加を見込むが、設備投資に伴う支出の増加も予想される。(娯楽業)
- 冬期営業開始による利用客数の増加が期待できるため、売上は増加すると思われる。(娯楽業)

# サービス業

## 業況、売上、採算

今期（2021.10～12）の業況判断DIは16.0で、前年同期(2020.10～12)と比べ49.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

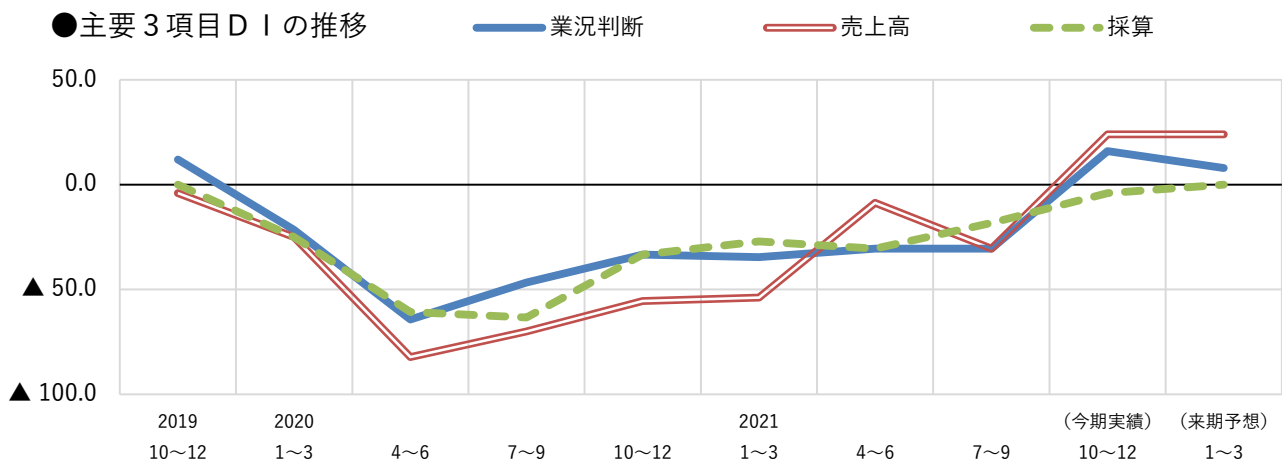
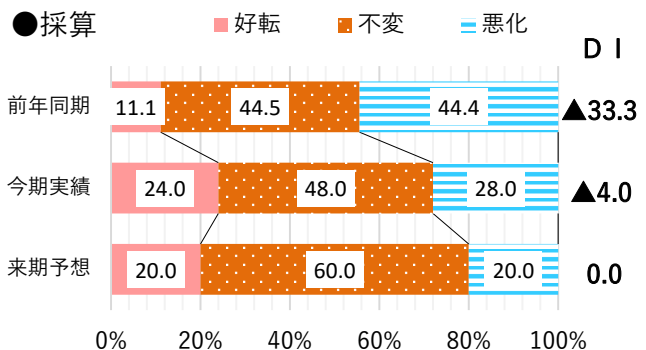
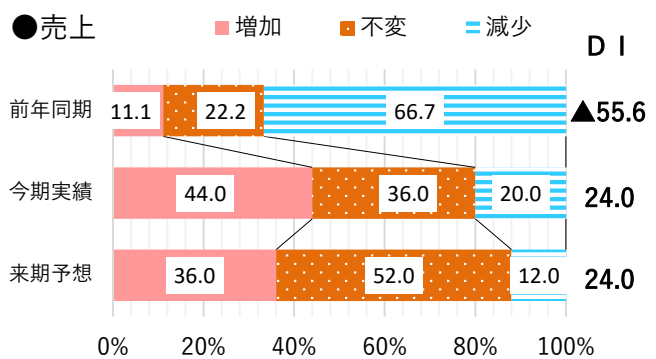
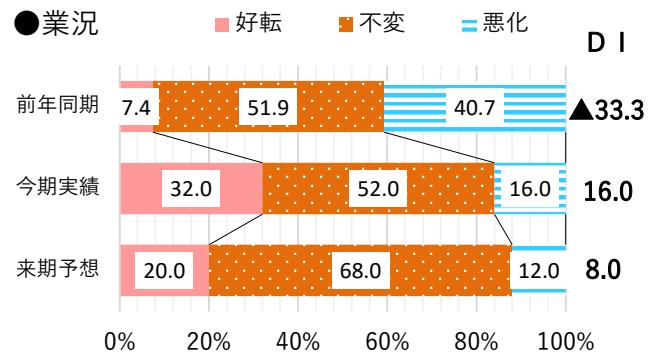
来期（2022.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは24.0で、前年同期と比べ79.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の横ばいを予想しています。

今期の採算DIは▲4.0で、前年同期と比べ29.3ポイント上昇しました。

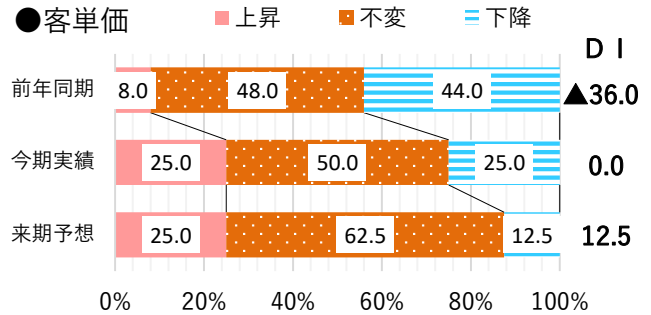
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

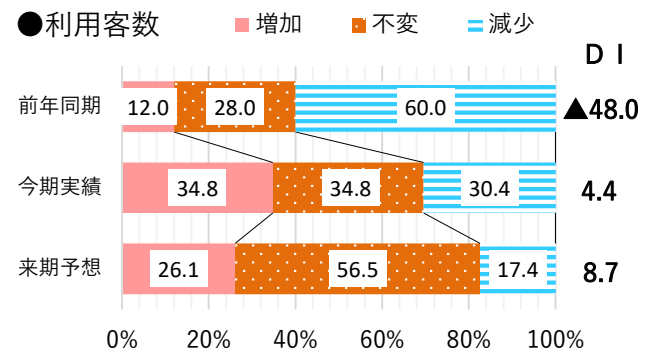
今期の客単価DIは0.0で、前年同期と比べ36.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価がプラスに転じると予想しています。



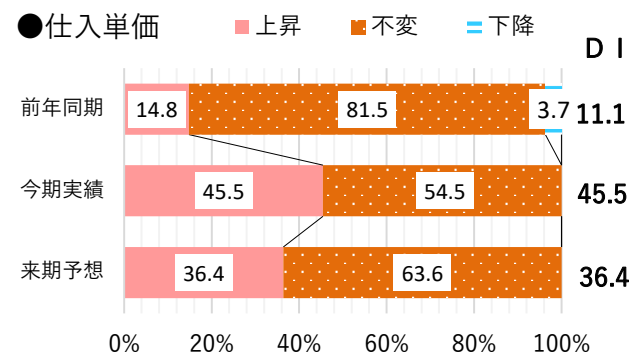
今期の利用客数DIは4.4で、前年同期と比べ52.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは45.5で、前年同期と比べ34.4ポイントと大幅に上昇しました。

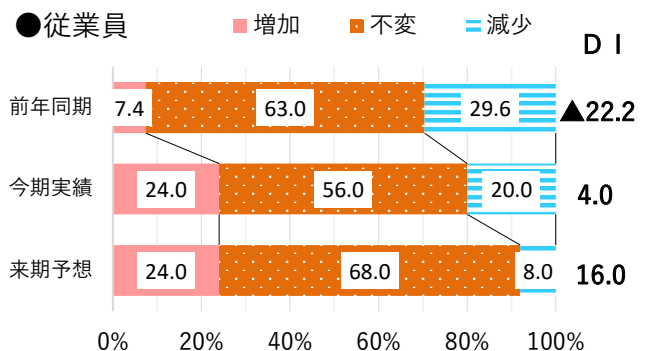
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

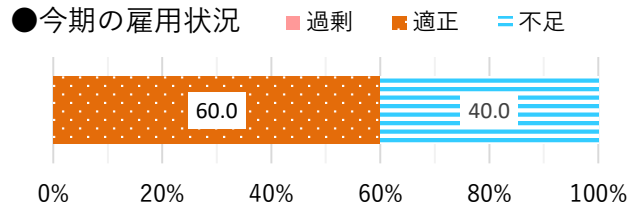
今期の従業員数DIは4.0で、前年同期と比べ26.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が続くと予想しています。





今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.0%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



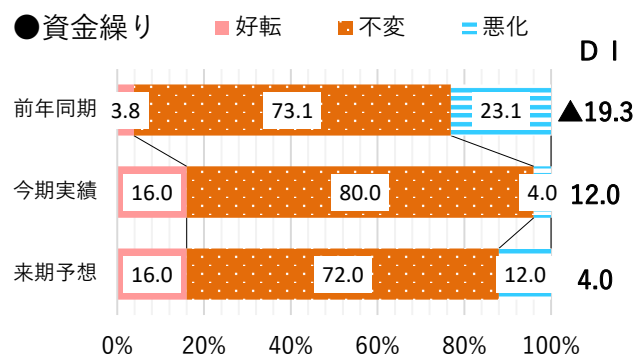
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の32.0%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	6
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。

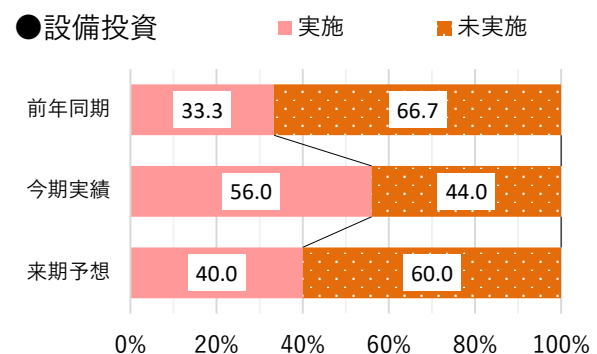
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは12.0で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。



来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

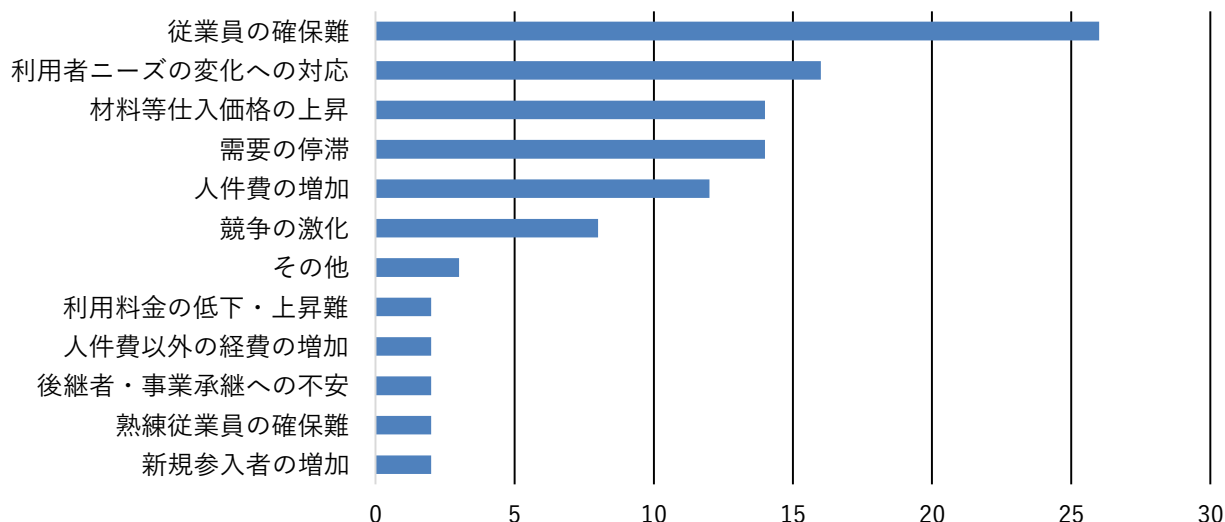
設備投資を実施した企業の割合は56.0%で、前年同期と比べ22.7%増加しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、減少を予想しています。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「材料等仕入価格の上昇」、「需要の停滞」（同位）の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 緊急事態宣言が解除され、客足は戻りつつあるが、地球温暖化や赤潮の影響で魚介類の仕入単価が高く、利益率が悪化しているため、値上げもやむを得ない状況だ。（飲食店）
- 人材確保が全く出来ずにいるが、客足は回復しつつある。最低賃金を引き上げた。（飲食店）
- 広告料収入が減少した。（出版業）
- 10月から最低賃金が上昇し、人件費が増加したものの、取引先に対する値上げが困難なため、収支が悪化した。従業員の高齢化に伴い、退職者が増加しているが、補充が進まない。（ビルメンテナンス）
- 原油価格の高騰により、仕入単価が上昇した。（ビルメンテナンス）
- コロナ禍で低迷していたが、雇用調整助成金や旅行以外の事業で業況が好転した。（旅行代理店）
- 緊急事態宣言が解除され、利用客数が増えたことで売上は増加したが、物価上昇の影響で、理美容への支出額が減少しており、客単価が低下した。仕入価格と最低賃金が上昇した。（美容業）
- 10月頃から客足が戻り、売上が回復した。原油価格の高騰により、材料費が増加した。（写真業）
- 口コミにより、利用客数が増加した。（写真業）
- 契約数が減少した。（保険業）
- 売上はやや増加傾向にある。中国の新疆ウイグル自治区人権問題を発端にした綿花の値上げが、仕入原価の高騰につながった。重油の値上げも利益減少の要因だ。（各種物品賃貸業）
- 昨年比で客数は減少したが、新規会員の会費等で収入が増えた。（スポーツ施設）

### [来期の業況について]

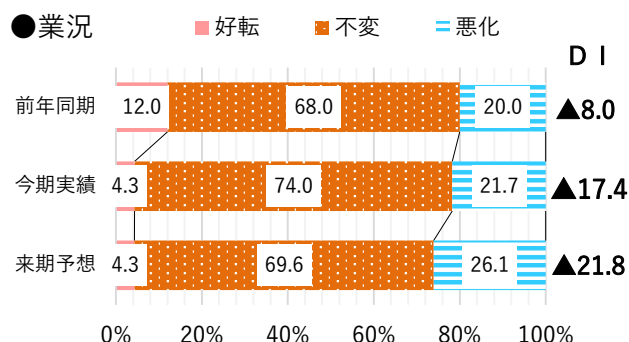
- 魚介類の価格高騰が続くと思われる。（飲食店）
- 引き続き旅行需要は伸び悩むと思われるが、旅行以外の事業で減収分を補填したい。（旅行代理店）
- イベントに出かける機会が増えると客数も増えるので、経済の活性化に期待する。（美容業）
- 利用客数の微増を見込む。（写真業）
- 重油価格の上昇傾向は落ち着くと思われる。仕入価格の動向は読めないため、顧客への値上げ交渉も併せて実施することで、経営の安定化を図る。（各種物品賃貸業）
- コロナ禍前の水準まで、来場者数は回復しないと思われる。安定した収入を確保するため、年会費とプレー料金を値上げを予定している。新入会員の増加に取り組みたい。（スポーツ施設）

# 建設業

## 業況、売上、採算

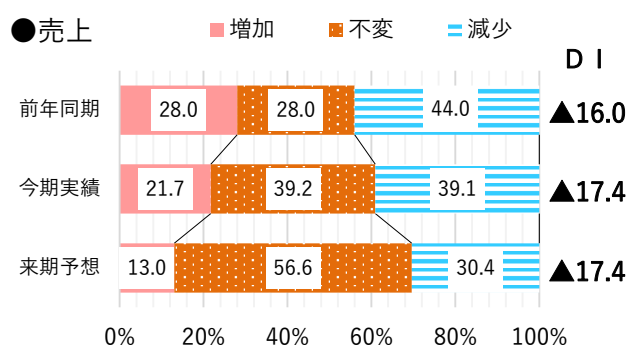
今期（2021.10～12）の業況判断DIは▲17.4で、前年同期(2020.10～12)と比べ9.4ポイント低下しました。

来期（2022.1～3）は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



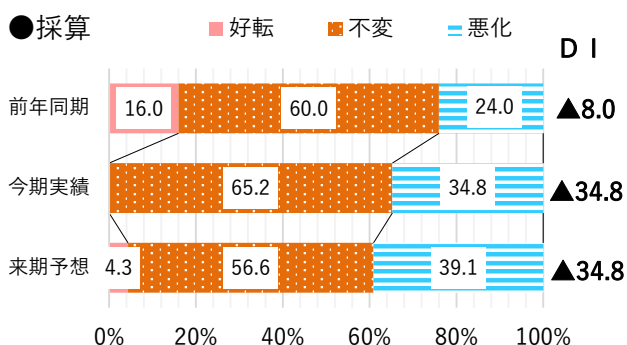
今期の売上高DIは▲17.4で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

来期は、売上の横ばいを予想しています。

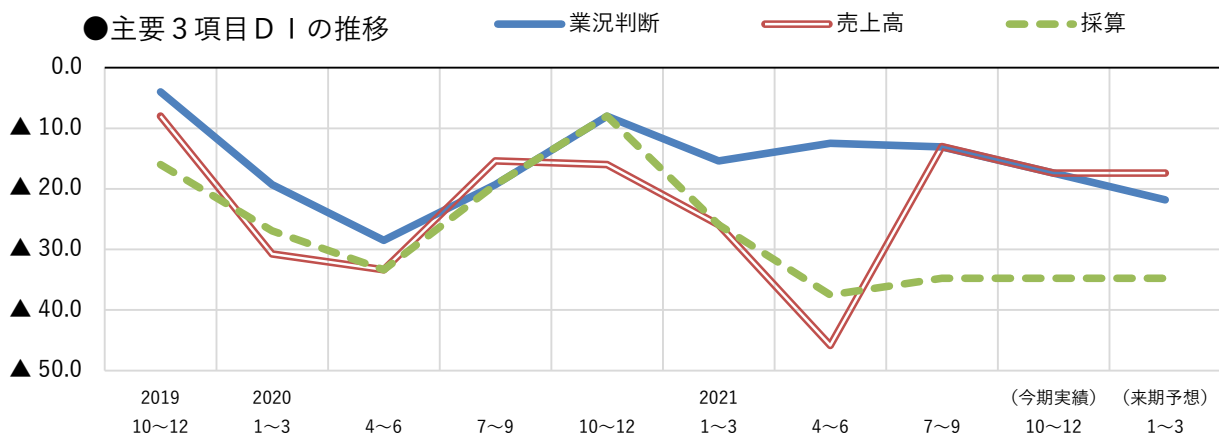


今期の採算DIは▲34.8で、前年同期と比べ26.8ポイント低下しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



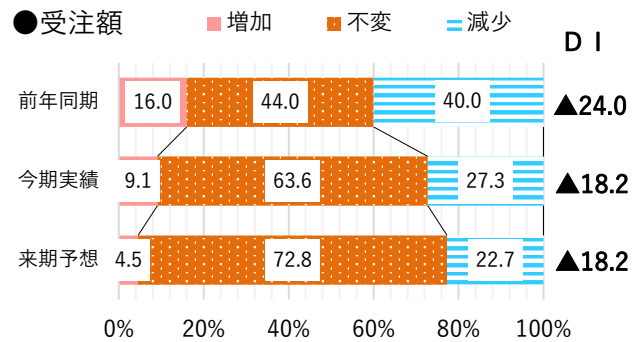
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

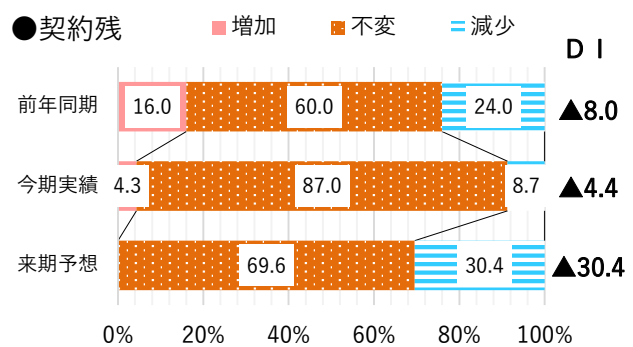
今期の受注額DIは▲18.2で、前年同期と比べ5.8ポイント上昇しました。

来期は、受注額の横ばいを予想しています。



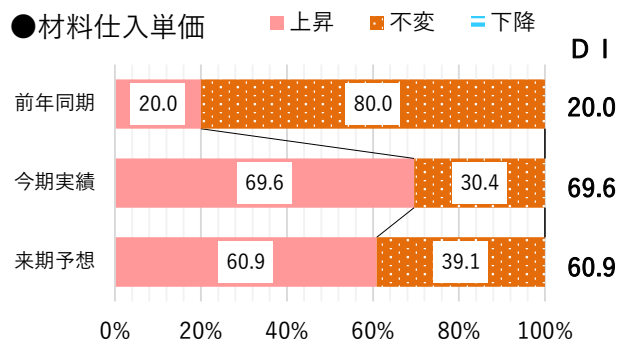
今期の契約残DIは▲4.4で、前年同期と比べ3.6ポイント上昇しました。

来期は、契約残の減少傾向が強まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは69.6で、前年同期と比べ49.6ポイントと大幅に上昇しました。

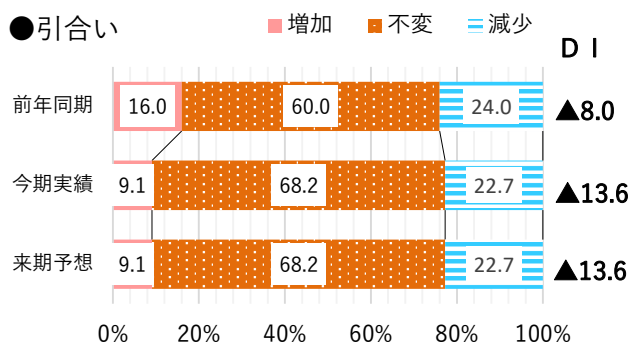
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは13.6で、前年同期と比べ5.6ポイント低下しました。

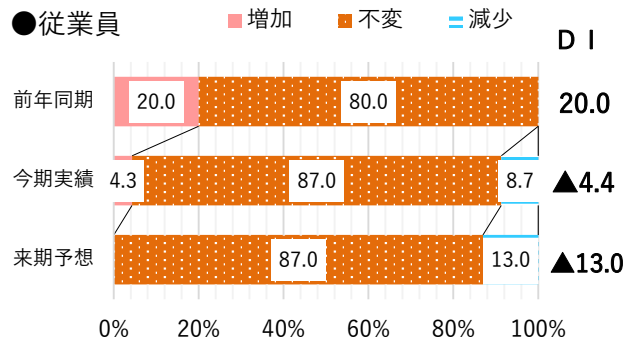
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



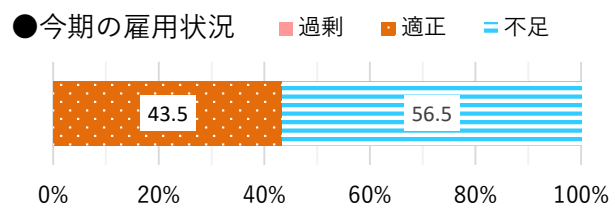
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.4で、前年同期と比べ24.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は43.5%、不足していると回答した企業の割合は56.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の47.8%を占めています。

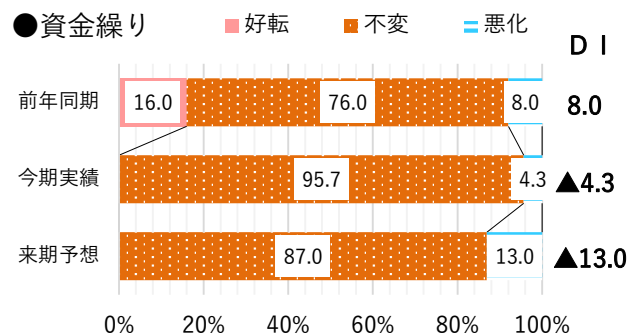
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

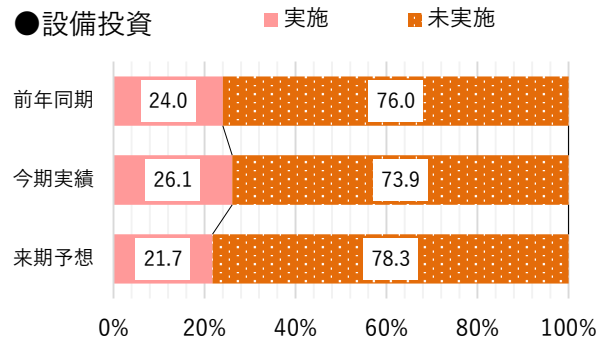
今期の資金繰りDIは▲4.3で、前年同期と比べ12.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



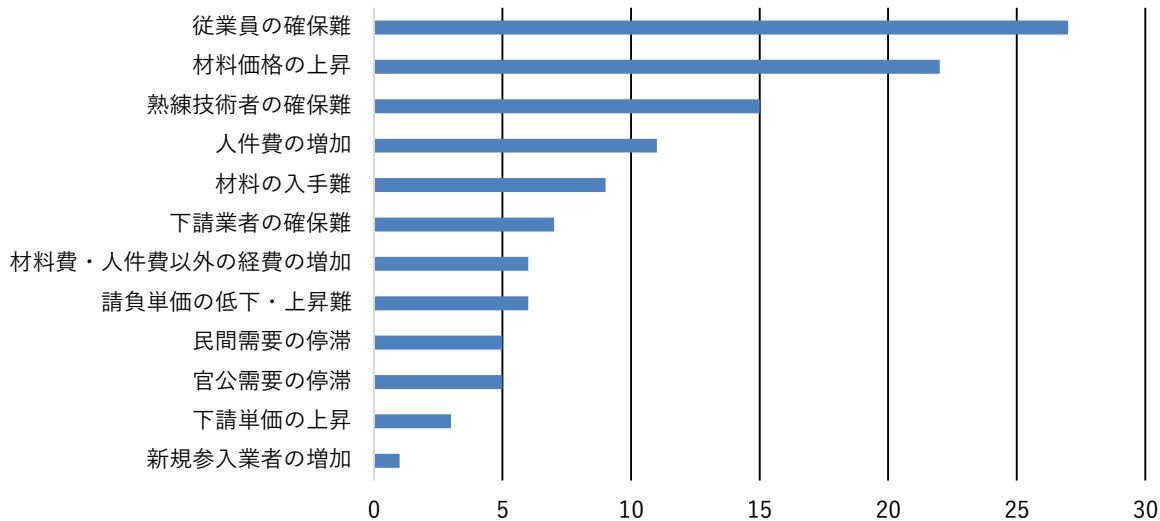
設備投資を実施した企業の割合は26.1%で、前年同期と比べ2.1%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「土地」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.7%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 大型工事が完成したため、完成工事額が増加した。木材の価格が安定しない。(一般土木工事業)
- 前半は売上と受注件数が増加したが、後半は仕入単価と下請単価が上昇した。(一般土木工事業)
- 前年同期比の受注件数に大きな変化はないが、売上額が減少した。(一般土木工事業)
- 前年並みの利益率は達成できた。(一般管工事業)
- 人材確保難と仕入単価の上昇により、好調とは言えない。(設備工事業)
- 仕入単価が30%~40%上昇した。(職別工事業)

[来期の業況について]

- 今後の社会情勢次第で、仕入単価の上昇が見込まれる。引き続き人材確保に注力する。(一般土木工事業)
- 悪化要因は今のところ見当たらない。(一般管工事業)
- 公共工事の見通しが立たず、受注件数等が大幅に減少すると思われる。(設備工事業)
- 売上が減少すると思われる。(職別工事業)

# 市内企業倒産状況

2021年10月~12月  
負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変  
負債総額は4,200万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	<b>1件</b>	<b>4,200万円</b>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 1件)	負債 +2,400万円 (前年同期 1,800万円)
■10月 なし		
■11月 建設業（負債4,200万円：既往のシワ寄せによる破産）の1件が発生した。		
■12月 なし		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2021年10月~12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は74件、前年同期比減少  
新設着工住宅戸数は63棟101戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<b>74件</b>	<b>63棟101戸</b>
前年同期比	件数 -1件 (前年同期 75件)	戸数 +14棟37戸 (前年同期 49棟64戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		